

令和4年度
男女共同参画の視点からの市民生活に関する調査
報告書

大阪市
大阪市立男女共同参画センター中央館
(クレオ大阪中央)

指定管理者:大阪市男女共同参画推進事業体
代表者:一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会

令和4年 11 月

はじめに

クレオ大阪中央研究室においては、男女共同参画社会の実現をめざし、大阪市の男女共同参画施策とクレオ大阪の各種事業に資する調査研究を行っています。大阪市においては、令和3年度から令和7年度までの5年間の「大阪市男女共同参画基本計画～第3次大阪市きらめき計画～」を策定し、「あらゆる分野における女性の参画拡大」「安全で安心な暮らしの支援」「持続可能な男女共同参画社会の実現に向けた環境づくり」という3つの施策分野を設定して取組を推進しています。また、国においては、「女性版骨太の方針 2022(女性活躍・男女共同参画の重点方針 2022)」の令和4、5年度に重点的に取り組むべき事項として、女性の経済的自立、女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現などが挙げられています。そして、今年5月には「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(困難女性支援法)」が成立しました。

こうした背景から、今年度クレオ大阪中央研究室では、市民の日常生活における「安全で安心な暮らしの支援」の実現のため、生活課題に関して調査を行いました。特に所得や住居、仕事等の生活基盤に関する市民の困難度、性別による有意差を把握し、施策や事業に資するものとして調査を行いました。本報告書が幅広く活用され、男女共同参画社会の実現に向けた取組の一助となれば幸いです。最後に、本調査研究の実施にあたり、ご尽力いただきました皆様に御礼申し上げます。

令和4年 11 月

大阪市立男女共同参画センター中央館(クレオ大阪中央)

研究室長 服部 良子

目 次

| | |
|----------------------|----|
| I. 調査概要 | |
| 1. 調査課題について | 3 |
| 2. 本調査の設計構造あたって | 4 |
| 3. 調査事項 | 5 |
| 4. 調査方法 | 6 |
| 5. 調査期間 | 6 |
| 6. 調査対象・サンプル | 6 |
| 7. 報告書内で使用する用語、定義 | 7 |
| II. 調査結果 | |
| 1. 基本属性 | 8 |
| 2. 生活に関する状況 | 11 |
| 3. 心と体の健康に関すること | 15 |
| 4. 人間関係に関すること | 18 |
| 5. 情報の収集、またはその手段について | 22 |
| 6. 家庭、または家庭と仕事に関すること | 25 |
| 7. 求職に関すること | 31 |
| 8. 相談に関すること | 33 |
| III. 考察 | 35 |
| IV. まとめ | 40 |

I. 調査概要

1. 調査課題について

平成 27 年(2015 年)の SDGs 課題の 1 つとして採択されたジェンダー分野が日本にとって新しい指針となりつつある。令和元年(2019 年)に大阪で G20 サミットが開催され、関連する国際イベントとしてジェンダー課題にも焦点があてられた。これらの動向は、ジェンダー課題、男女共同参画の課題について、日本が 1950 年代の法的枠組みのみに依拠する限界に気付く機会となったのではないだろうか。

SDGs の目標年 2030 年に向けてジェンダー課題・男女共同参画課題に対応する整備が多方面で加速しかたちとなりつつある。本調査では二つの視点から市民の困難な課題の実態と政策対応の展望を探ることとした。

第一に、コロナ禍をきっかけとする市民生活全般の困難な課題に関することである。令和 2 年(2020 年)春の緊急事態宣言からはじまったコロナ禍は、令和 4 年(2022 年)においても依然としてウィズコロナというコロナ禍の延長線上にある。まずは感染防止を最優先せざるをえない中で、社会経済の変化の市民生活へのインパクトは甚大なものがあり、結果として、市民の直面した困難、困りごとは多方面にわたっていた。こうした市民の困難や困りごとの実態とその支援において、男女共同参画の視点から市民の課題の確認が求められている。

第二に、男女共同参画の政策課題のなかの主要なもの 1 つとして困難女性の支援が位置づけられたことである。それは令和 4 年(2022 年)6 月に示された内閣府の「女性版骨太方針 2022」にも明確に記載されている。「困難な状況にある女性」について、従来、婦人保護事業として女性の支援活動を行ってきた現場からは実態に対応するため新たな法律を求める声が上がっていたという。そうした声に対応したのが令和 4 年(2022 年)施行の困難女性支援法であった。

男女共同参画課題として、骨太方針の中では未婚率の上昇や単身世帯の増加など家族の変化と関連していくつかの男性に関わる課題も設定されている。男女共同参画政策の課題は、単に女性の課題のみに対処すれば解決がかなうのではなく、男性の困難課題に対処することが女性の困難課題と社会の課題の解決につながることは自明である。

こうした視点から令和 4 年(2022 年)の社会状況を前提として、大阪市の男女共同参画施策をふまえて、「男女共同参画の視点から」市民の実態を“困りごと”を焦点とした多角的、総合的な調査を実施することとなった。

コロナ禍によってもたらされ顕在化した多様な困りごとは、従来からの多様な男女共同参画課題と関連していることから、本調査では、生計や住まいなど生活、仕事、人間関係とともに DV、ハラスメントや関連相談も調査対象とした。

重点方針 II

女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現

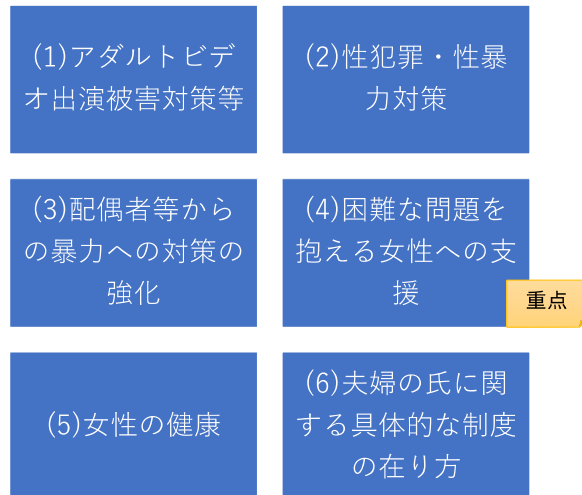
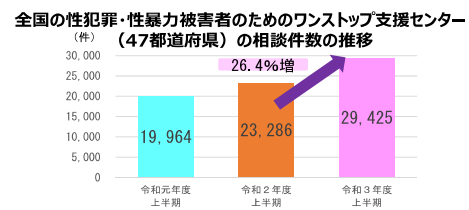


図1 女性活躍・男女共同参画の重点方針 2022（女性版骨太の方針 2022）・重点方針（抜粋）

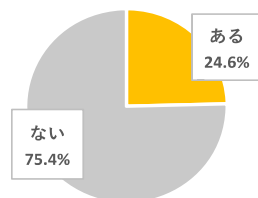
社会の変化 その3

性犯罪・性暴力は続く
困難な問題を抱える女性



アダルトビデオ出演被害：モデルやアイドル等の勧誘（令和2年）

①モデル・アイドル等の勧誘経験の有無 (n=20,000)



②聞いていない・同意していない
性的な行為等の撮影要求の有無 (n=2,575)

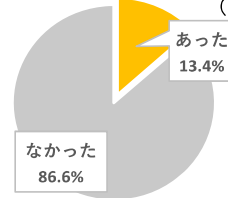


図2 多様な困難事案への対応実態（女性活躍・男女共同参画の重点方針 2022 より）

2. 本調査の設計構造

「男女共同参画の視点から」市民の実態を“困りごと”を焦点として多角的、総合的な調査とするため以下の調査概要に示すような構成とし、まず困りごとを種類別にして調査項目を設定した。ついで、困りごとへの対応領域を大きく4領域に整理して調査項目を立てている。生活面、仕事面、そして両者に関わる領域と困りごと対処関連領域である。

生活面は、生計費、住宅関連、子育て教育さらに健康関連、人間関係、そして、地域活動などのジャンルを設定した。そして仕事面は、労働環境やテレワーク、就職活動等を設定した。生活面と仕事面の両者に関わる領域として、生活・家庭(家事・育児・介護)のほか、今回の調査では、DV・ハラスメントについて

でも、この領域に関連することとして設定している。困りごと対処関連では、情報収集、そのツール、さらに相談に関連する事柄を設定した。

この対象領域を前提として、男女、年齢階層、所得水準、就業形態などに関連づけて分析をすすめた。

3. 調査事項

設問項目一覧は以下のとおりである。

| | 項目 | 設問文 |
|-------|----------------------|---|
| SC1 | 年代 | あなたの年齢をお答えください。／年代 |
| SC2_1 | 性別 | あなたの性別をお答えください。 |
| SC3 | 居住地 | あなたのお住まい(都道府県)をお知らせください。 |
| SC4 | 居住地 | あなたのお住まいはどちらですか。 |
| SC5 | 婚姻状況 | あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には事実上夫婦として生活しているが、婚姻届けを提出していない場合を含めます。 |
| SC6 | 同居者 | あなたが同居している人をお答えください。なお、「配偶者」には事実上夫婦として生活しているが、婚姻届けを提出していない場合を含めます。 |
| SC7 | 同居している末子年齢 | あなたが同居している子どもについて、最も年齢が低い人をお答えください。 |
| SC8 | 職業 | あなたの現在の職業・雇用形態をお答えください。 |
| Q1 | 従業員規模 | あなたが勤める企業・団体のおおよその従業員規模をお答えください。従業員には正社員の他にパートや派遣社員といった正社員以外も含んでください。 |
| Q2 | 個人・世帯の年収 | 令和3年中(1月～12月)のあなた個人の収入と世帯の収入をお答えください。 |
| Q3 | 住居形態 | あなたのお住まいの住居形態をお答えください。 |
| Q4 | 生計の維持、支出に関する困りごと | 生計の維持・支出に関することで困っていることはありますか。 |
| Q5 | 生活の中で特に節約しているもの | 生活の中で特に節約しているものがあれば、あてはまるものを3つまでお答えください。 |
| Q6 | 住宅、生活環境に関する困りごと～持ち家～ | 住宅、生活環境について困っていることはありますか。 |
| Q7 | 住宅、生活環境に関する困りごと～賃貸～ | 住宅、生活環境について困っていることはありますか。 |
| Q8 | 住居を選ぶときの重視点 | 住居を選ぶときに特に重視することを選んでください。 |
| Q9 | 転居時に希望する住居形態 | 転居を想定した場合、どのような住居形態に住みたいと考えますか。 |
| Q10 | 転居時の困りごと、障害になったこと | 転居の際や又は転居しようとした際に、困ったこと、障害になったことをお答えください。 |
| Q11 | 健康状態や治療に関する困りごと | 現在、健康状態や治療のことで困っていることはありますか。 |
| Q12 | 健康に関する興味・関心 | 健康や治療に関して、どのようなことに興味や関心がありますか。 |
| Q13 | 過去1年間に受けた検診 | あなたが過去1年間の間に以下の健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)を受けたものをお答えください。 |
| Q14 | 過去1年間に検診等を受けなかった理由 | 過去1年間に健診等を受けなかった理由としてあてはまるものをお答えください。 |
| Q15 | 人との関係に関する悩みやストレス | あなたは現在、どのような人との関係で悩みやストレスを感じますか。 |

| | | |
|-----|----------------------------|---|
| Q16 | 人間関係に関する困りごと | 現在、あなたが人間関係で最も困っていることを具体的に教えてください。 |
| Q17 | 非同居者とのコミュニケーションの有無 | あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーションの手段と頻度について、あてはまるものをお答えください。 |
| Q18 | 参加している活動 | あなたは現在どのような活動に参加していますか。 |
| Q19 | 家族内や親しい関係間での暴力やハラスメントなどの経験 | 家族内や親しい関係間での暴力やハラスメントなどを経験したことはありますか。 |
| Q20 | 情報収集方法 | あなたは情報収集する際、どの手段を頻繁に利用していますか。 |
| Q21 | デジタル端末の利用状況 | スマートフォンやパソコン、タブレットなどのデジタル端末の利用について、以下の項目であてはまるものをお答えください。 |
| Q22 | SNSの利用状況 | あなたの SNS の利用状況についてお答えください。 |
| Q23 | SNSでトラブルや困ったことになった経験 | SNS を利用していて次のようなトラブルや困ったことを経験したことはありますか。 |
| Q24 | 家事・育児・介護の負担 | 育児・家事・介護の負担について、どのように感じていますか。 |
| Q25 | 子どもの育児・教育に関する困りごと | 子どもの育児・教育に関することで困っていることはありますか。 |
| Q26 | 家庭のことと仕事との両立に関する困りごと | 家事・育児・介護など家庭のことをしながら仕事をするとときに、困っていることはありますか。 |
| Q27 | 家事に関する困りごと | 家事について最も困っていることを具体的に教えてください。 |
| Q28 | 育児に関する困りごと | 育児について最も困っていることを具体的に教えてください。 |
| Q29 | 勤務条件や労働環境に関する困りごと | 勤務条件や労働環境について困っていることはありますか。 |
| Q30 | テレワークを経験して感じたこと | 自分がテレワークを経験したことによって感じたことであてはまるものをお答えください。 |
| Q31 | 家族がテレワークを経験して感じたこと | 家族がテレワークを経験したことによって感じたことであてはまるものをお答えください。 |
| Q32 | 就職活動で困ったこと | 就職活動の際に困ったことはありますか。過去 5 年以内の状況であてはまるものをお答えください。 |
| Q33 | 不安や悩みの相談先 | あなたに不安や悩みが生ずることがあった場合、誰に相談しますか。 |
| Q34 | 不安や悩みを相談することに対する気持ち | あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。 |

4. 調査方法

インターネット・モニターに対するアンケート調査

5. 調査期間

令和 4 年 9 月 1 日（木）～9 月 4 日（日）

6. 調査対象・サンプル

大阪市在住の 20 歳以上の男女 1,200 人
年代ごとに均等割り付け

7. 報告書内で使用する用語、定義

| | 分類 | | 内容 |
|-----|-------------------|---------|---------------------------------------|
| 職業 | 有職者 | 正規 | 正規の職員・従業員、会社経営(経営者、役員) |
| | | 非正規 | 非正規の職員(派遣社員、契約社員、パート、アルバイト等) |
| | | その他 | 自営業、その他 |
| | 無職者 | 専業主婦・主夫 | 専業主婦・主夫 |
| | | 無職 | 無職、学生 |
| 世帯別 | 単身世帯 | | 世帯員が一人(回答者のみ)の世帯 |
| | 子育て世帯(末子が未就学児以下) | | 末子が未就学の子どもと同居している人。それ以上の子どももいる場合を含む |
| | 子育て世帯(末子が小学生～大学生) | | 末子が中学生以下の子どもと同居している人。それ以上の子どももいる場合を含む |
| | 子育て世帯(末子が社会人) | | 末子が社会人の子どもと同居している人。 |

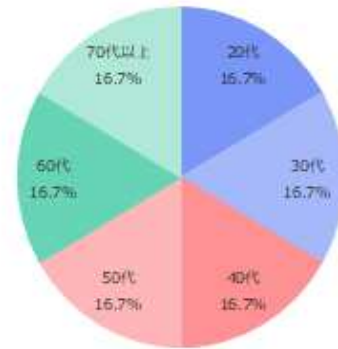
Ⅱ. 調査結果

1. 基本属性

1) 性別・年代

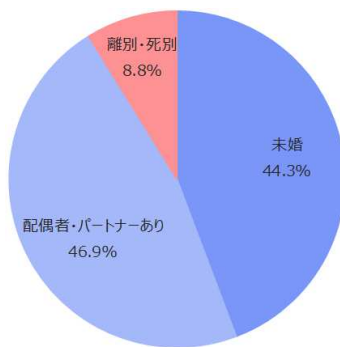


n=1,200



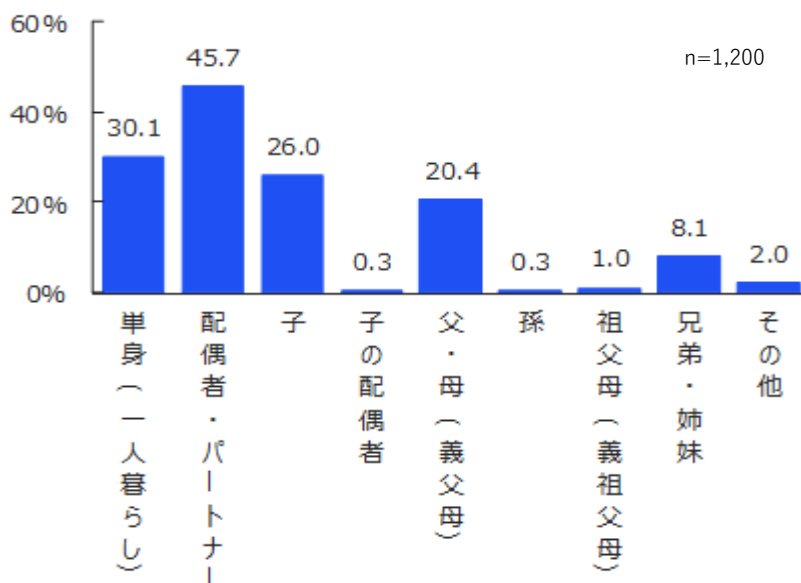
n=1,200

2) 婚姻状況



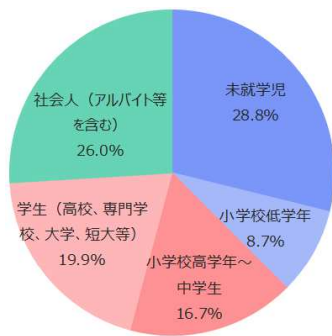
n=1,200

3) 同居家族



n=1,200

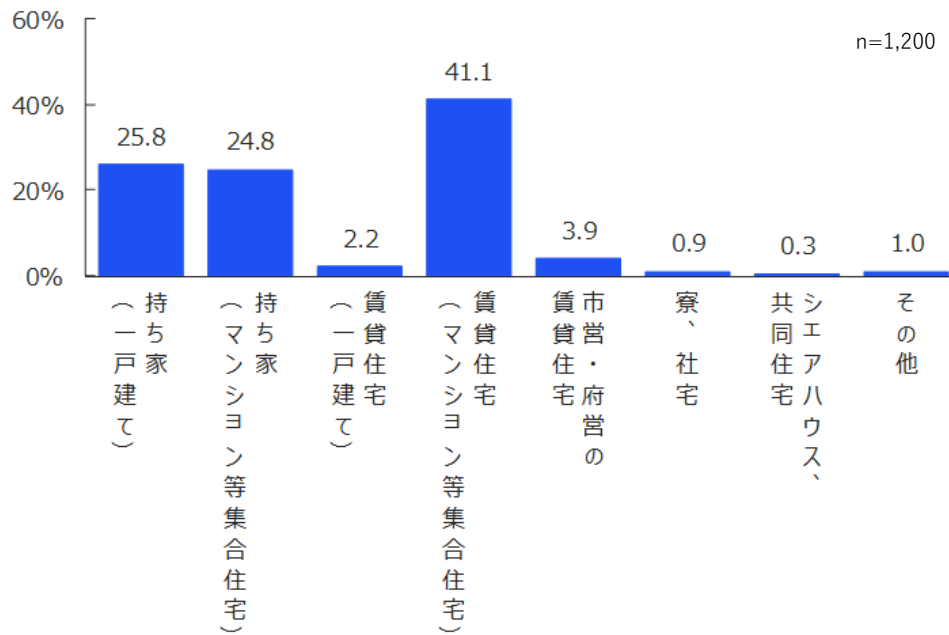
4) 同居の末子の学齢



n=312

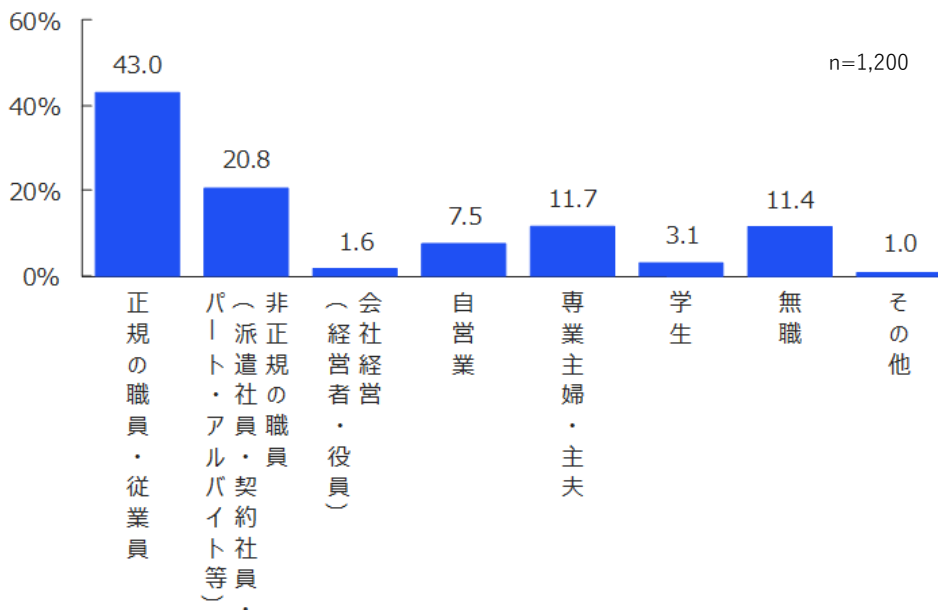
※子ども・または孫と同居者ベース

5) 住居形態



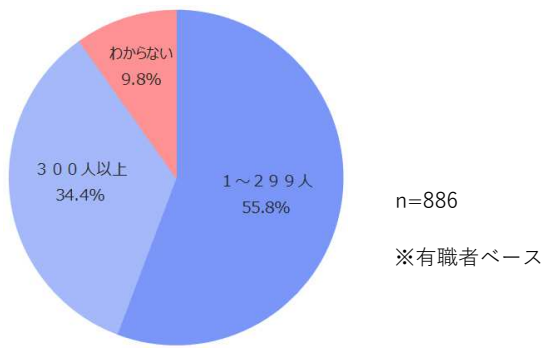
n=1,200

6) 職業

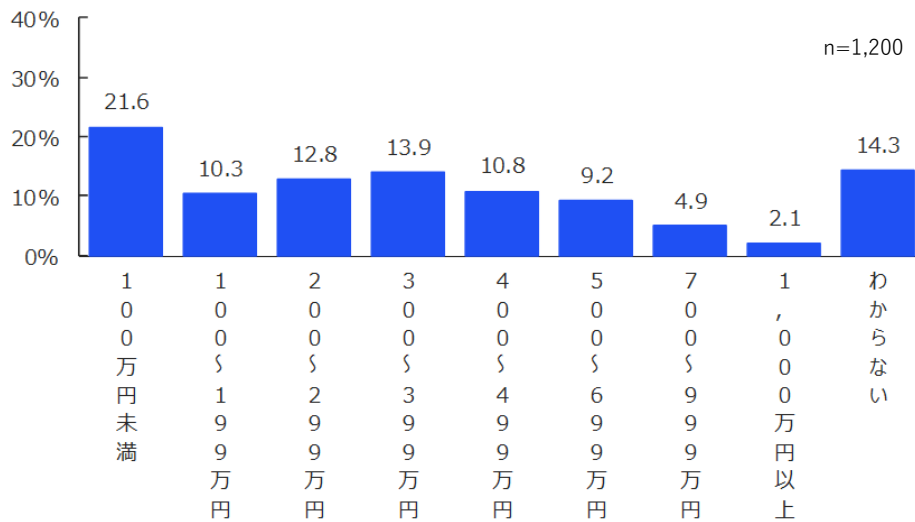


n=1,200

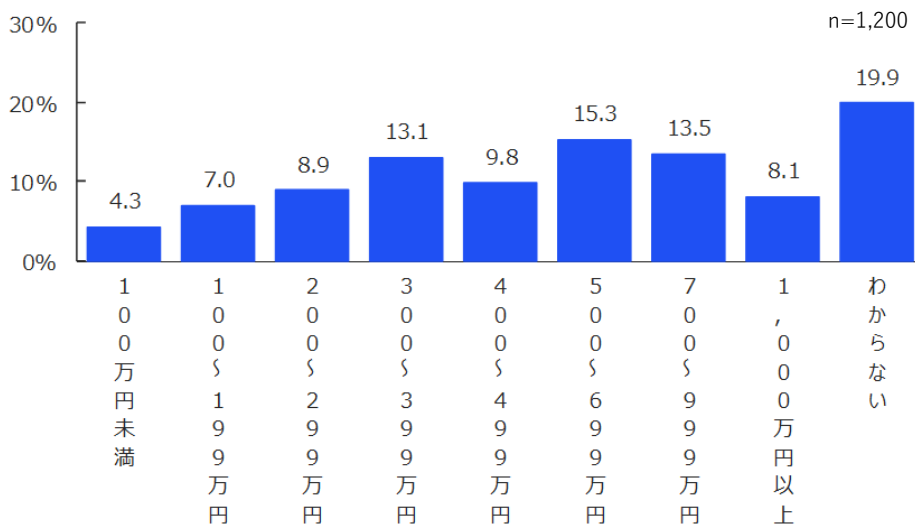
7) 勤務先の従業員数



8) 個人年収



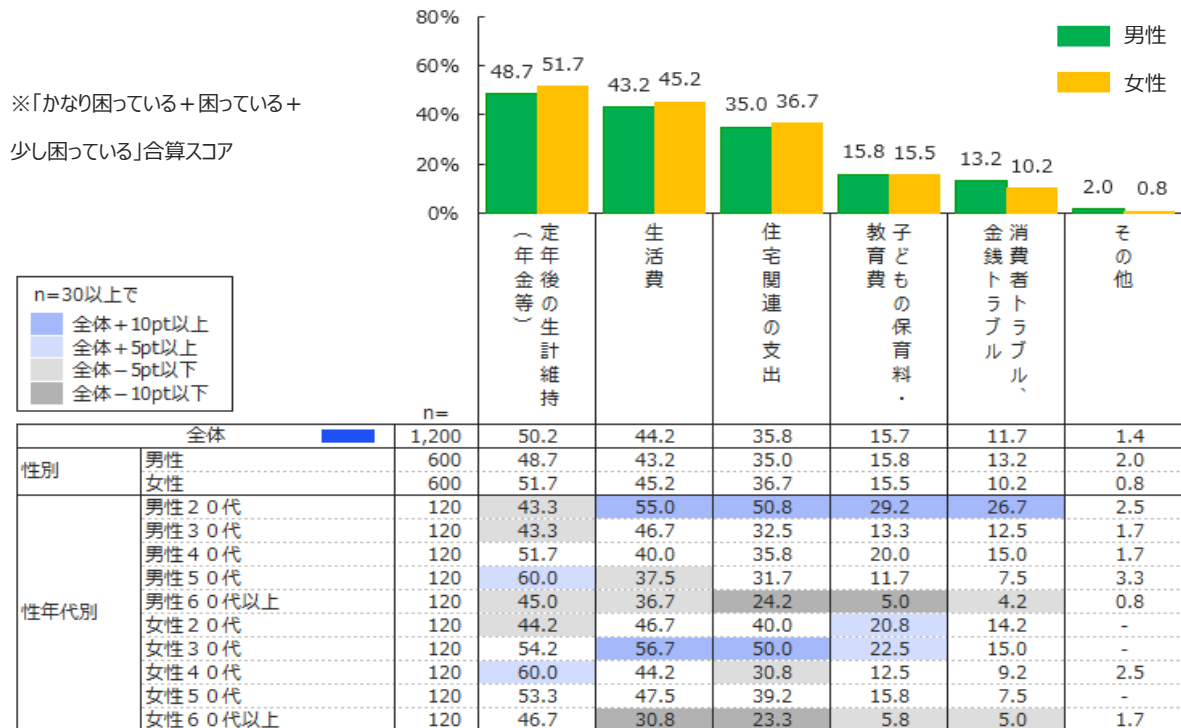
9) 世帯年収



2. 生活に関すること

生計の維持、支出に関する困りごと

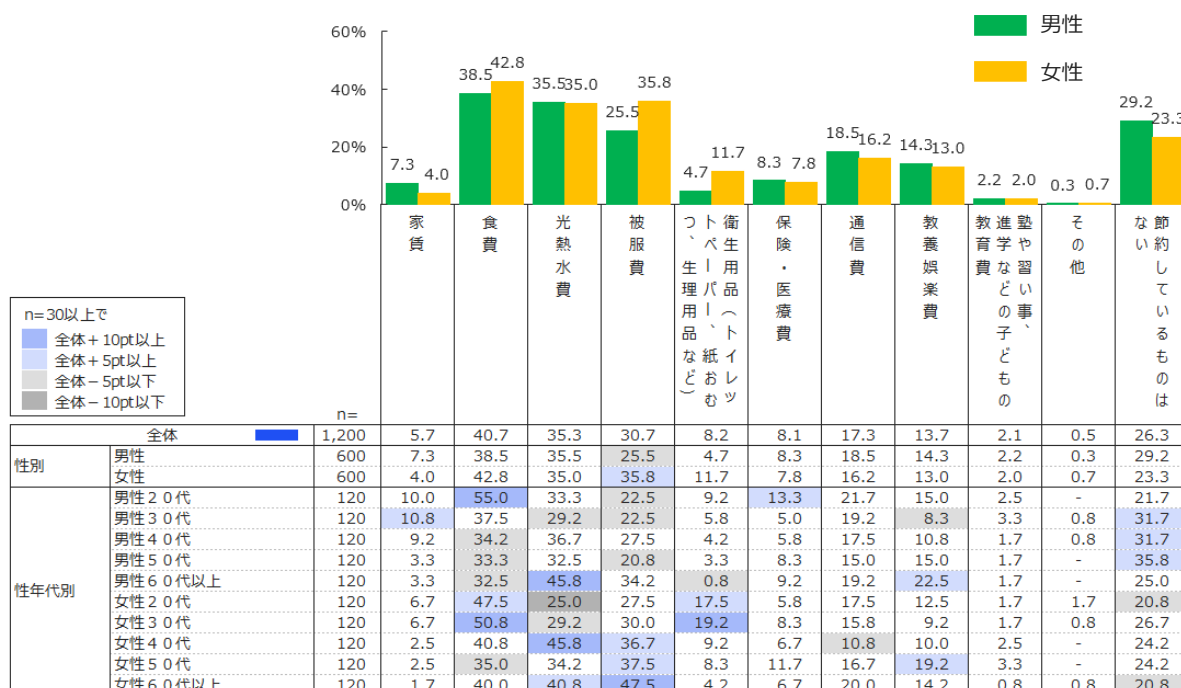
Q4 生計の維持、支出に関することで困っていることはありますか。(各 SA)



- 男女差は大きくはないが、定年後の生計維持、生活費、住宅関連の支出にて、わずかに女性が上回っている。
- 生活費では、比較的年代が低いほうが困っている。
- 20代男性は定年後の生計維持以外の項目にて、他の性別年代よりも高い割合を示している。

生活の中で特に節約しているもの

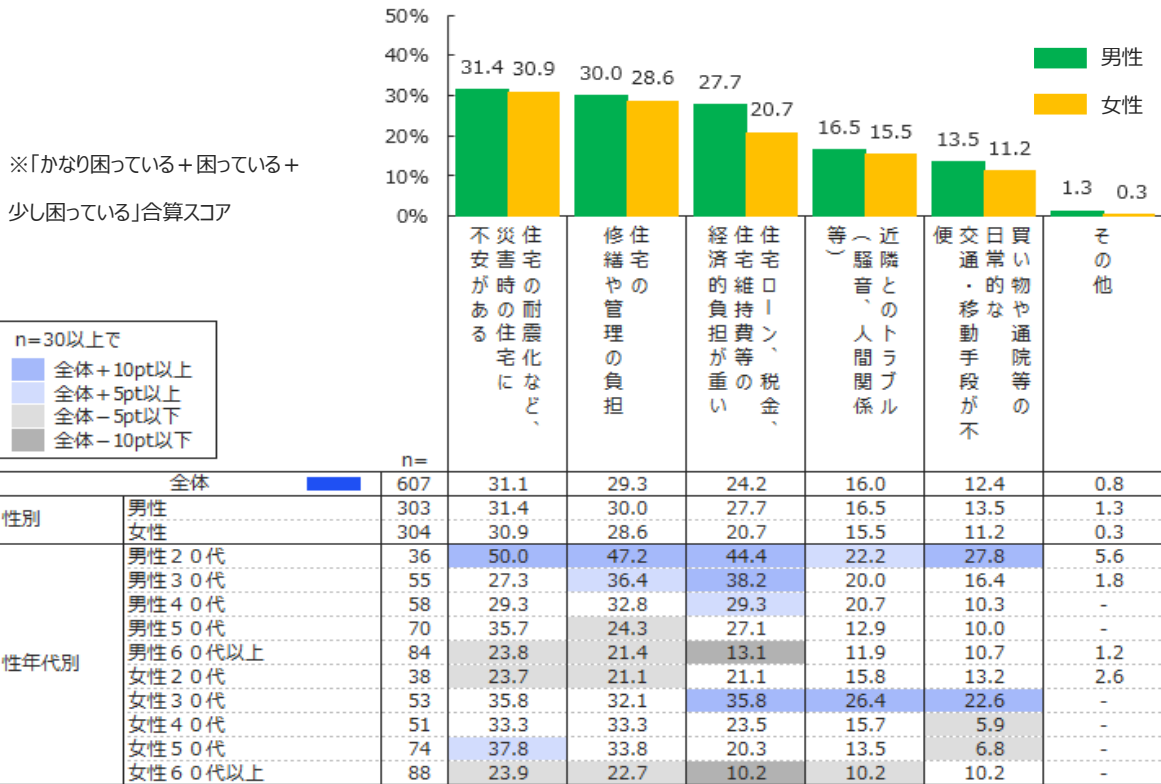
Q5 生活の中で特に節約しているものがあれば、あてはまるものを3つまでお答えください。(複数回答)



- 生活の中で特に節約しているものは、「食費」が40.7%で最も高い。以下、「光熱水費」「被服費」が3割台で続く。
- 食費、衛生用品等、日常生活での細かな支出には女性のほうが節約志向が高い。

住宅、生活環境に関する困りごと ～持ち家～

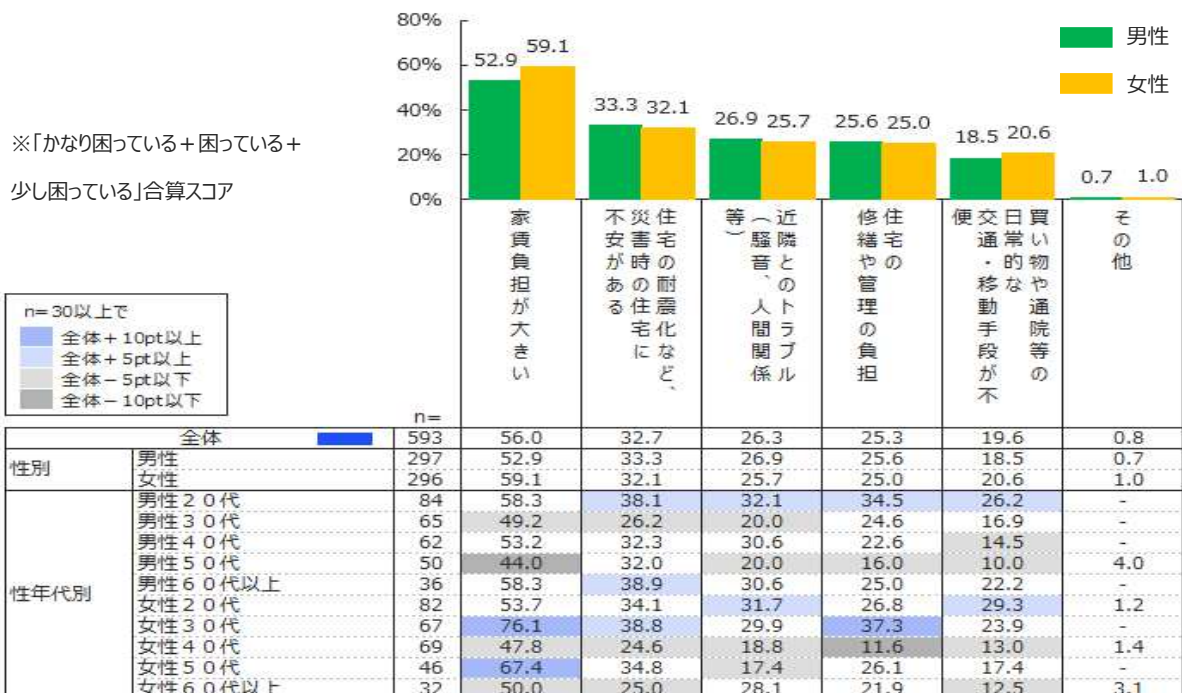
Q6 住宅、生活環境について困っていることはありますか。(各 SA)



- 持ち家層における住宅、生活環境に関する困りごとは、「災害時の住宅に不安がある」「住宅の修繕や管理の負担」「経済的負担が重い」が続いており、約3～4人に1人が困っている。
- 住宅ローン等の経済的負担は約4人に1人が困っており、女性より男性のほうが割合が高い。
- 20代における割合が全般的にやや高い。

住宅、生活環境に関する困りごと ～賃貸～

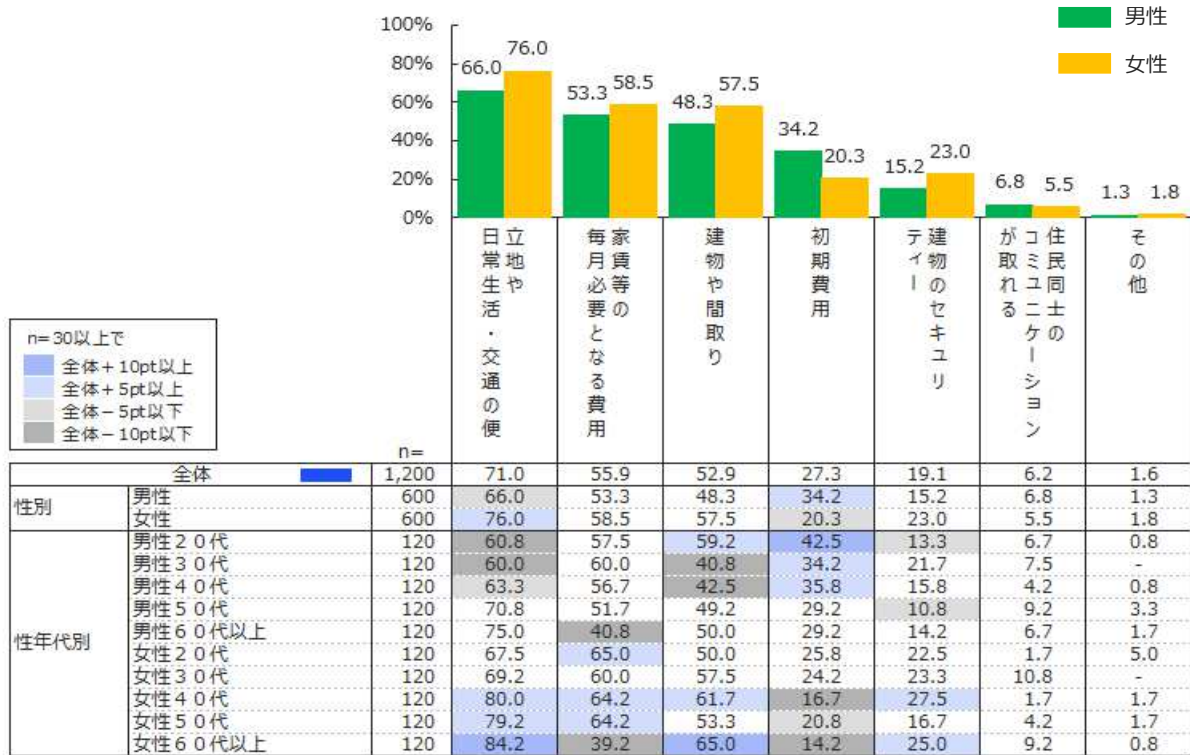
Q7 住宅、生活環境について困っていることはありますか。(各 SA)



- 賃貸層における住宅、生活環境に関する困りごとは、「家賃負担が大きい」が5割を超え、女性の方が高い割合で見られる。
- 30代女性の4人に3人は「家賃負担が大きい」ことに困っている。
- 「災害時の住宅に不安がある」は、約3割の人が感じている。

住居を選ぶときの重視点

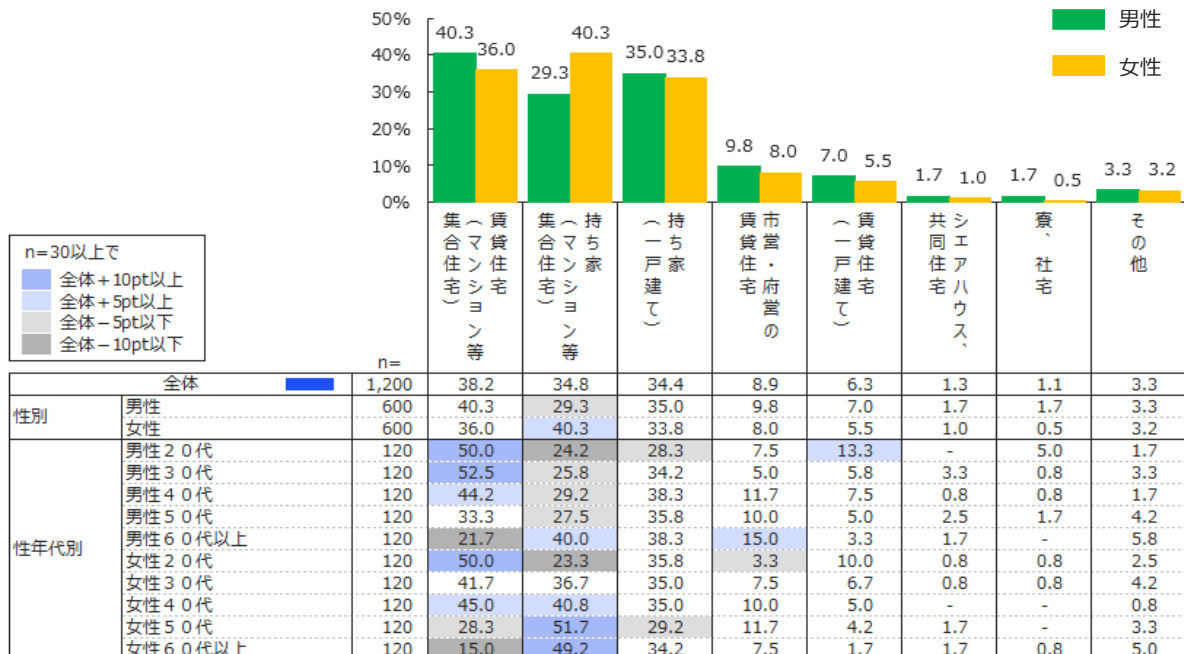
Q8 住居を選ぶときに特に重視することを教えてください。(MA)



- 住居を選ぶときの重視点は、「立地や日常生活・交通の便」が71.0%で最も高く、以下、「家賃等の毎月必要となる費用」「建物や間取り」が5割台で続く。
- 全体で最も高い「立地や日常生活・交通の便」は高齢層ほど重視する割合が高く、60代以上では79.6%となっており、女性の方が割合が高い。

転居時に希望する住居形態

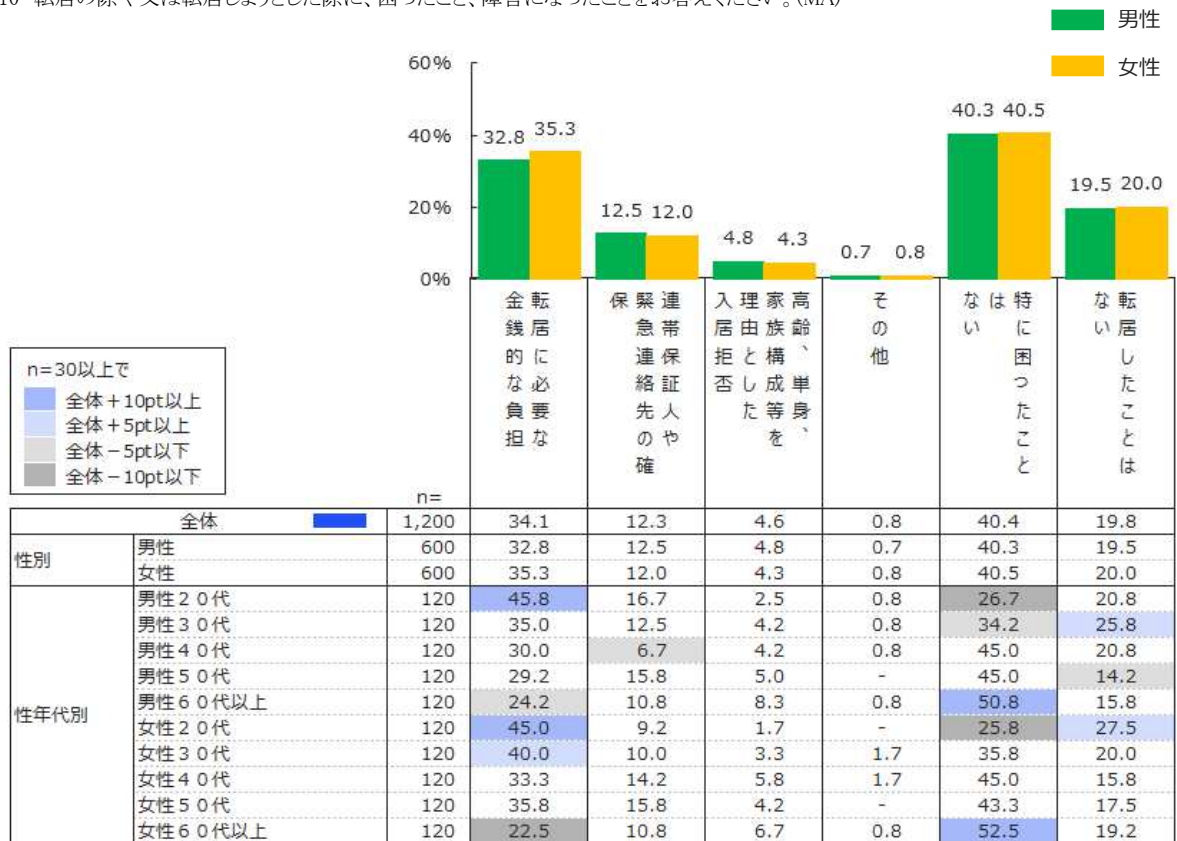
Q9 転居を想定した場合、どのような住居形態に住みたいと考えますか。(MA)



- 転居時に希望する住居形態は、「賃貸住宅(マンション等集合住宅)」が 38.2%でもっと高い。以下、「持ち家(マンション等集合住宅)」「持ち家(一戸建て)」が3割半ばで続く。
- 全体で最も高い「賃貸住宅(マンション等集合住宅)」は若年層ほど希望する割合が高く、20代では半数が希望している。
- 50代、60代女性の2人に1人は「持ち家(マンション等集合住宅)」を希望している。

転居時の困りごと、障害になったこと

Q10 転居の際や又は転居しようとした際に、困ったこと、障害になったことをお答えください。(MA)

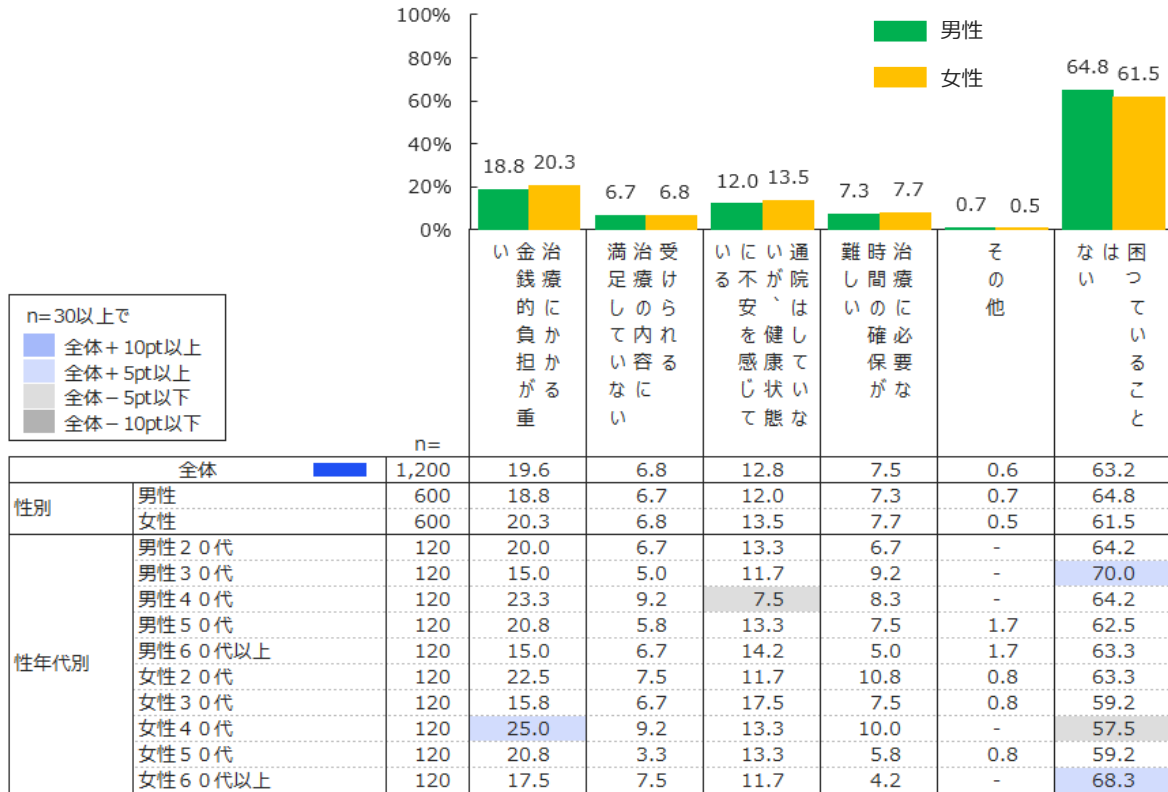


- 各項目とも、大きな男女差は見られない。
- 転居時の困りごと、障害になったことは、「転居に必要な金銭的な負担」が 34.1%で最も高く、次いで「連帯保証人や緊急連絡先の確保」が 12.3%となっている。
- 一方、「特に困ったことはない」と回答した割合が 40.4%となっている。
- 「転居に必要な金銭的な負担」は 20代の男女ともに高く、約 45%となっている。

3. 心と体の健康に関すること

健康状態や治療に関する困りごと

Q11 現在、健康状態や治療のことで困っていることはありますか。(MA)



- 健康状態や治療に関する困りごとについて、「困っていることはない」と回答した割合が6割となっており、大きな男女差はないものの、年代ごとに男女差をみると、30代で10ポイントの差がある。
- 「治療にかかる金銭的負担が重い」がことに約2割の人が困っている。わずかに女性の方が割合が高い。

健康や治療への興味・関心

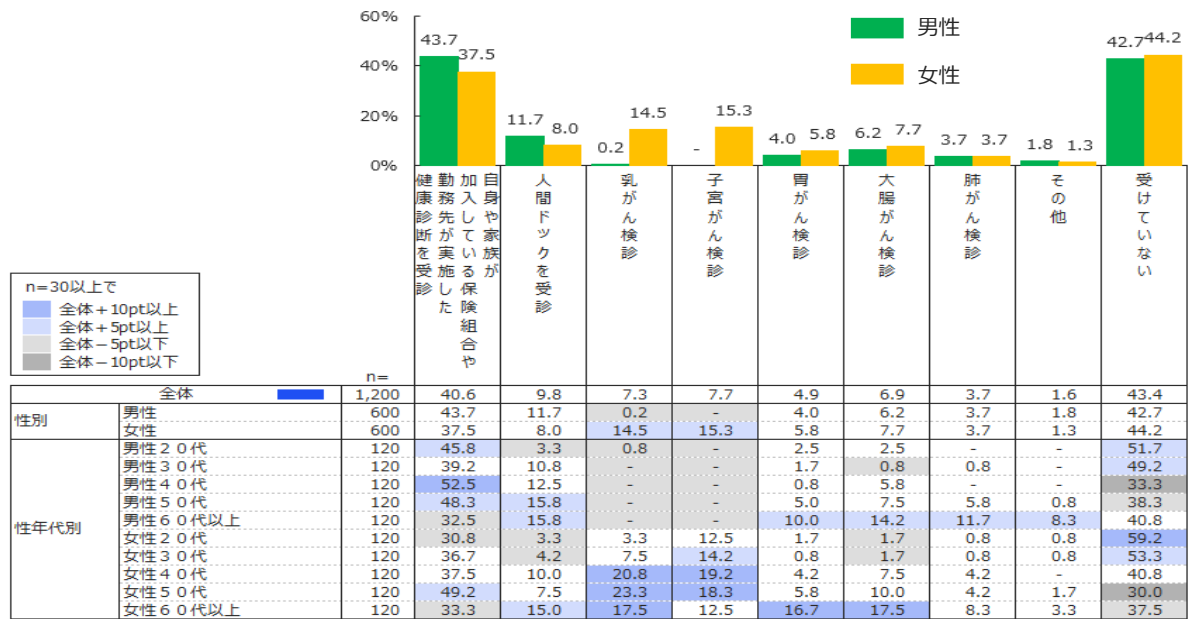
Q12 健康や治療に関して、どのようなことに興味や関心がありますか。(自由記述回答)

- 何歳まで健康体でいられるか健康体でいるために気を付けることはなにか 男性 20代
- 三割負担でも、経済的につらい 男性 30代
- 治療費がちゃんと出るかどうか 男性 30代
- 将来的にどのような病気にかかるか。 男性 30代
- 不妊治療の保険適応 男性 30代
- それぞれの分野で評判のいい医者が近くにいるかどうか 男性 40代
- 医療費を抑える方法 男性 40代
- 加齢とともにガタが来て漠然とした不安がある 男性 40代
- 加齢に伴い体力低下などを感じているが、どのように対応すればよいか 男性 40代
- 何をすればどういう病気になるのか、具体的にわかるようになってほしい 男性 50代
- 手術が容易な深刻でないちょっとした病気や怪我の入院でも保証人を頼まなくてはいけないこと 男性 50代

| | | |
|---|----|-------|
| ● 年齢的に加齢から来る病や体力の低下について詳しく個人的に把握しておきたいです。 | 男性 | 50代 |
| ● 老後の病院への入院、保証人問題など | 男性 | 50代 |
| ● 健康寿命を限りなく伸ばして、ピンコロ人生を送ることです。 | 男性 | 60代以上 |
| ● 高齢化に伴う安全な健康体操などの健康維持情報。 | 男性 | 60代以上 |
| ● 疾病により出費は異なるが、治療費・入院日数・入院費用に関心があります。 | 男性 | 60代以上 |
| ● 情報が多すぎてなにが本当のことかわからない | 男性 | 60代以上 |
| ● オンラインやチャットでの簡易診察また簡単に手に入れられる治療薬 | 女性 | 20代 |
| ● 医療費が高額になったときについて | 女性 | 20代 |
| ● 産後で他の人と話す機会が少ないため情緒不安定になることがある。 | 女性 | 20代 |
| ● リモート診療がもっと簡単に受けられるようになること | 女性 | 30代 |
| ● 健康的な食生活を送るアドバイスが欲しい | 女性 | 30代 |
| ● 非正規雇用なので健康診断が受けられない | 女性 | 30代 |
| ● 病気した時の生活費や、子供がまだ小さいのでその子達の世話とかをどうするか不安がある。 | 女性 | 30代 |
| ● 自分の症状がなんなのかかわからないので医療費をかけずに相談できる場所があればいいと思う。 | 女性 | 40代 |
| ● 待ち時間が少なく、受診できるようになること | 女性 | 40代 |
| ● 無理なく続けられる身体に良いこと、わかりやすく面白楽しくできることを教えてほしい | 女性 | 40代 |
| ● 老後の医療費や病気になったときの生活費、医療費 | 女性 | 40代 |
| ● 金銭的負担が大きいが高額医療補助を受けられるほどでは無いので実質負担が大きい | 女性 | 50代 |
| ● 健康に関して、年相応の弱り方だからそのまま観察か、治療が必要か、自分では判断が付きにくい。 | 女性 | 50代 |
| ● 心身共に常に安定している状態を保つ | 女性 | 50代 |
| ● かかりつけ医がいなくて不安。 | 女性 | 60代以上 |
| ● 国民健康保険の負担額が変わる事、健康を維持する為の勉強会・公共のジムが必要。 | 女性 | 60代以上 |
| ● 子供の世話にならずに自立 | 女性 | 60代以上 |
| ● 治療にあまりかかわらないで済むよう健康な身体を維持することに関心がある。 | 女性 | 60代以上 |
| ● 情報過多で返って迷ってしまう。 | 女性 | 60代以上 |

過去1年間に受けた検診

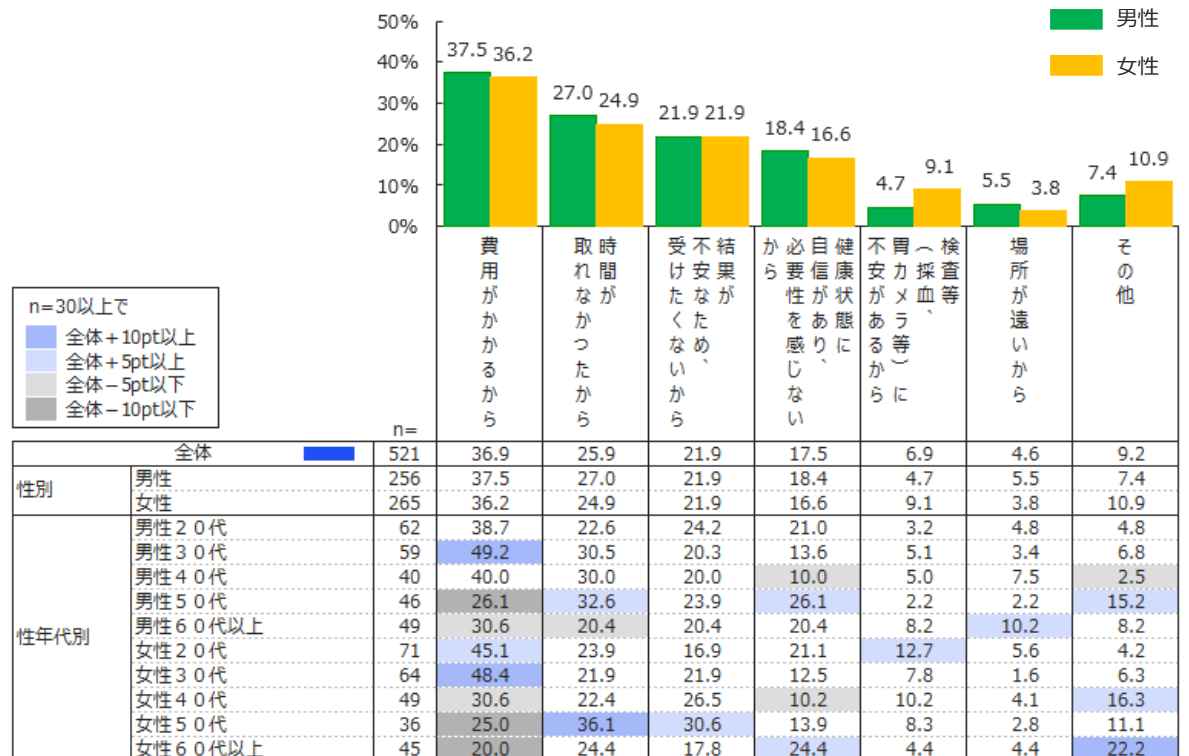
Q13 あなたが過去1年間の間に以下の健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)を受けたものをお答えください。(MA)



- 過去1年間に受けた検診は、「自身や家族が加入している保険組合や勤務先が実施した健康診断」が4割となっており、女性の割合がやや低い。
- そのほかの検診は1割未満の水準となっている。
- また、「受けていない」と回答した割合が全体で43.4%となっており、大きな男女差はみられない。

過去1年間に検診等を受けなかった理由

Q14 過去1年間に健診等を受けなかった理由としてあてはまるものをお答えください。(MA)

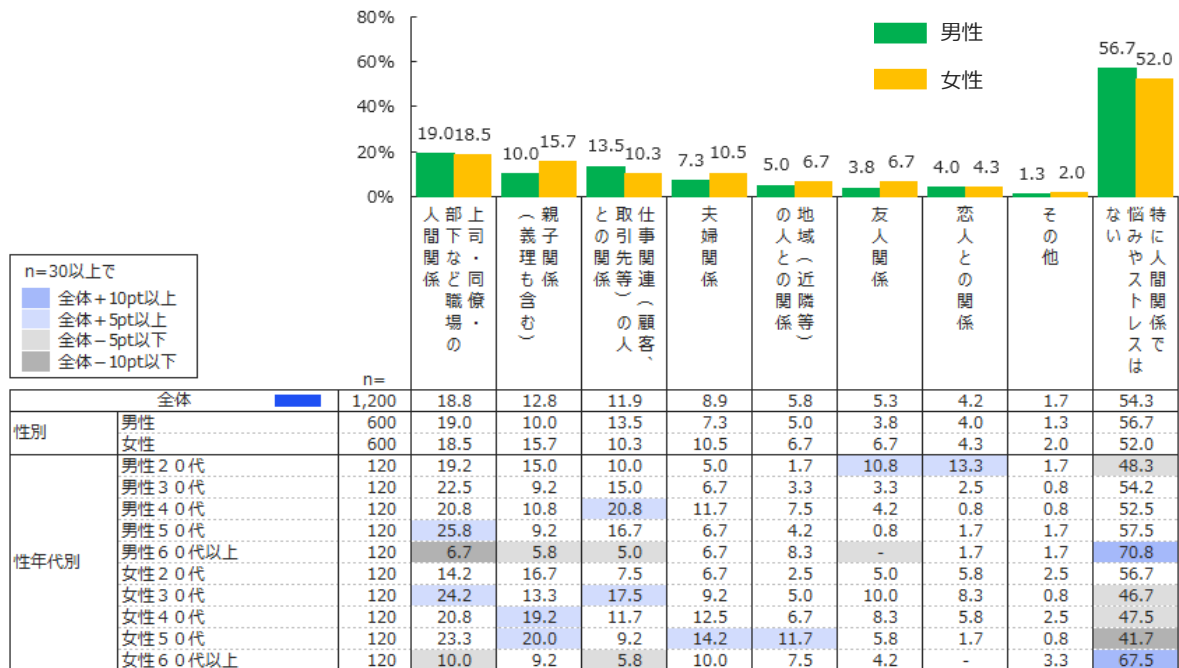


- 過去1年間に検診を受けなかった理由は、「費用が掛かるから」が36.9%で最も高い。
- 以下、「時間が取れなかったから」「結果が不安なため、受けたくないから」が2割台で続く。
- 全体で最も高い「費用が掛かるから」は20~30代の若年層で高く、30代では48~49%に達する。

4. 人間関係に関すること

人との関係に関する悩みやストレス

Q15 あなたは現在、どのような人との関係で悩みやストレスを感じますか。(MA)



- 人間関係に関する悩みやストレスは、「上司・同僚・部下など職場の人間関係」が男性19.0%、女性18.5%で、それぞれ最も高い。
- 以下、「親子関係」「仕事関連(顧客、取引先等)の人との関係」が1割台で続く。
- 「特に関係のない」と回答した割合は54.3%と半数以上。20代以外は男性のほうが高い。

人との関係で困っていること

Q16 現在、あなたが人間関係で最も困っていることを具体的に教えてください。(自由記述回答)

- 職場に話す人がいない。 男性 20代
- 干渉されすぎて疲れる 男性 30代
- 頼られた際に期待に応えようとしてしまいストレスがたまる 男性 30代
- 親の介護についての姉弟間の負担 男性 40代
- 金銭的な問題で夫婦間での喧嘩が増えた 男性 50代
- 義母とのこれからの対応の仕方 男性 60代以上
- 地域内での様々な人との接し方 男性 60代以上
- なかなか同年代の友達ができない 男性 60代以上
- 子供が生まれてから夫婦関係が少し変化した。夫のことが以前より鬱陶しく感じる。 女性 20代
- 古い考えの親がめんどくさい 女性 20代
- ママ友の言い方がキツイ、イラッとしてしまう 女性 20代
- コロナ禍で友人とかに会えない 女性 20代

- 子供を交えた夫婦関係 女性 30代
- 自治体の役員 女性 30代
- 金銭感覚や教育方針の違い 女性 30代
- 親がいつまでもコントロールしてくること 女性 40代
- 日々の生活家事等が、やればやるだけ、いつも誰も何もせず、自分一人で頑張
ってやっていることに、虚しさや、孤独を感じ人生が嫌になってくる 女性 40代
- 職場での考えの違いで人気関係が悪くならないようなコミュニケーションを心掛
けているが疲労する。 女性 40代
- 夫婦2人暮らしで、何かにつけてすぐに怒り、いつもご機嫌伺いしている状態 女性 50代
- 部下同士が上手くいっていない 女性 50代
- 聞きたいことやちょっとした話でも邪魔くさそうな顔をする。普通の話し方が出来
ない。 女性 60代以上
- 息子夫婦との意思疎通がなかなか難しいこと 女性 60代以上
- 近隣と世代が違うので、付き合いにくい 女性 60代以上

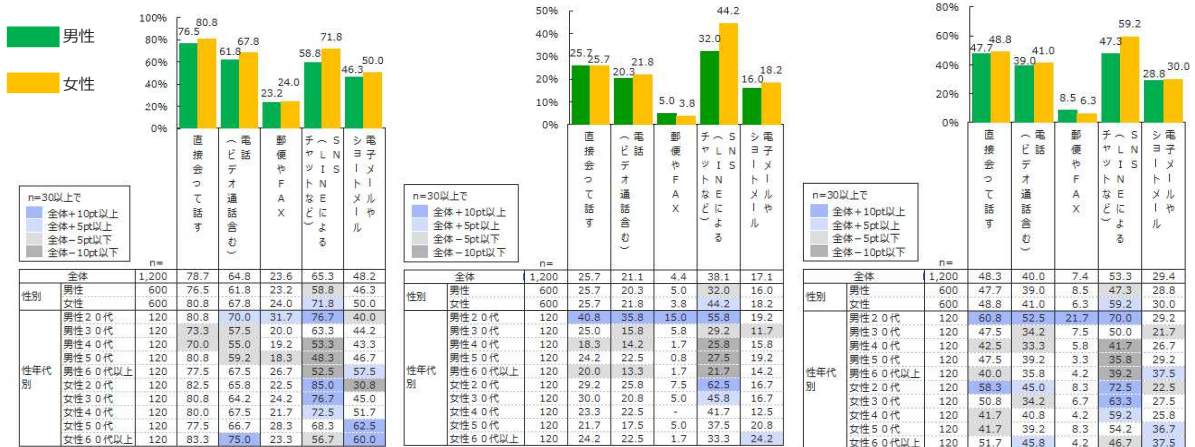
非同居者とのコミュニケーションの有無

Q17 あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーションの手段と頻度について、当てはまるものをお答えください。
(各 SA)

【コミュニケーションがある割合】

【週1回以上
コミュニケーションがある割合】

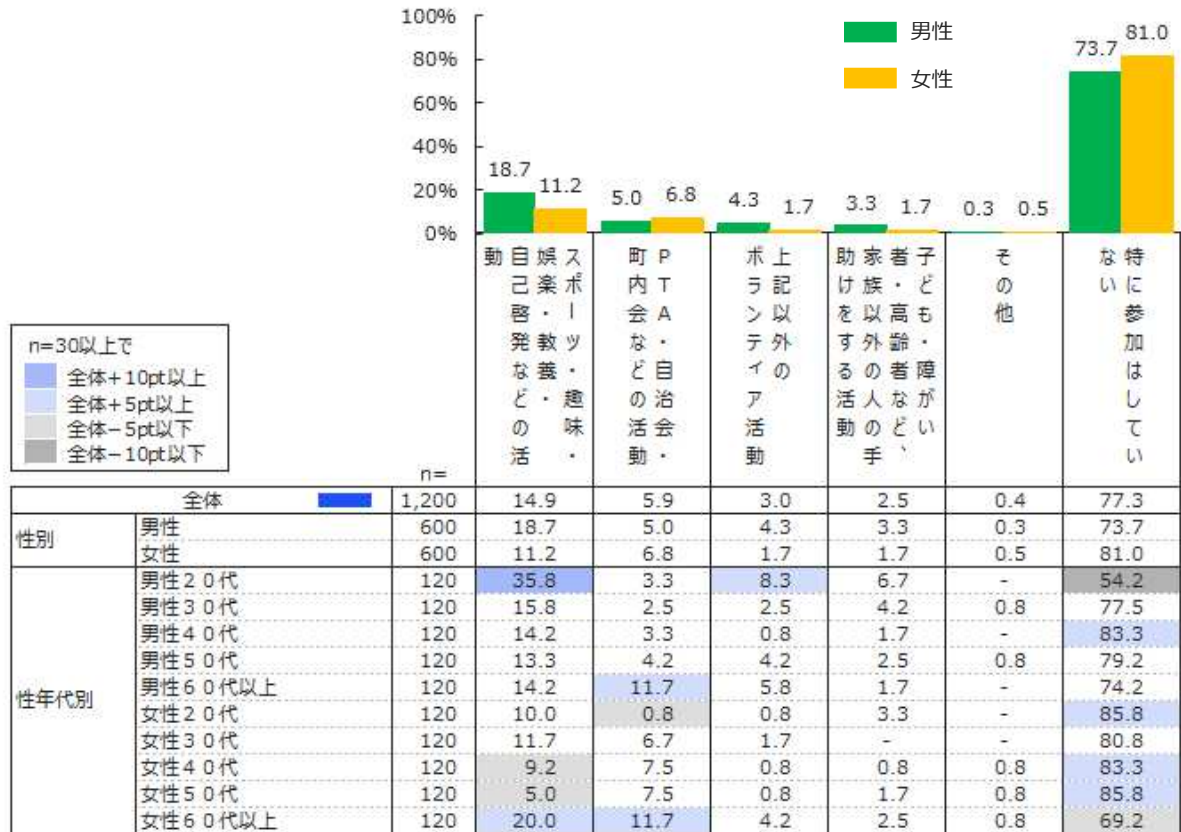
【月1回以上
コミュニケーションがある割合】



- 非同居者とのコミュニケーションは、「直接会って話す」割合が78.8%と最も高く、「電話」「SNS」でのコミュニケーションも6割以上みられる。
- 月1回以上の頻度ではいずれも4~5割、週1回以上では2~3割となっている。
- いずれのコミュニケーション手段も20代における頻度が高く、中でも「SNS」の頻度が他のツールよりも高い結果となっている。

参加している活動

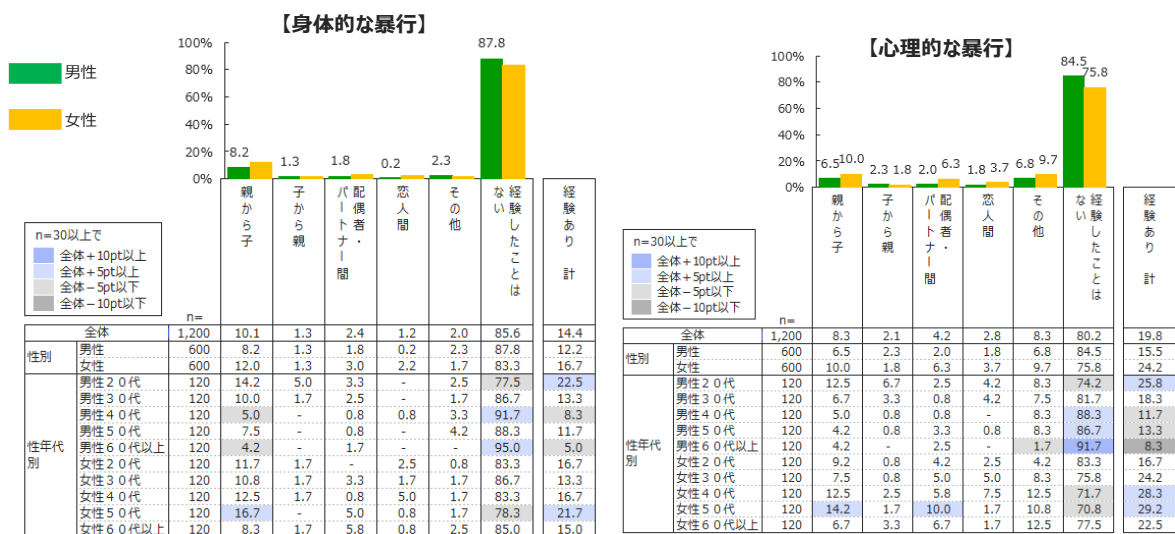
Q18 あなたは現在どのような活動に参加していますか。(MA)

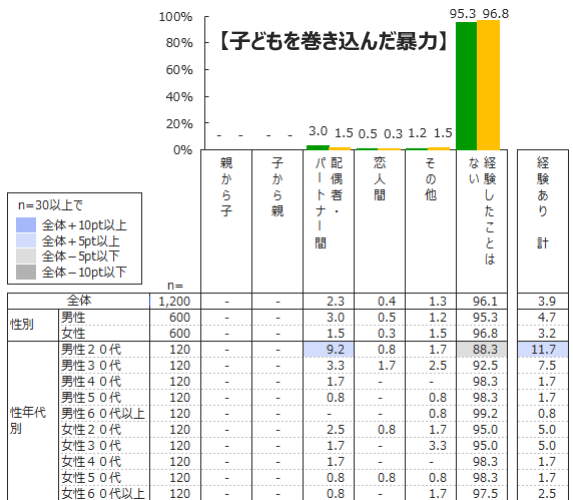
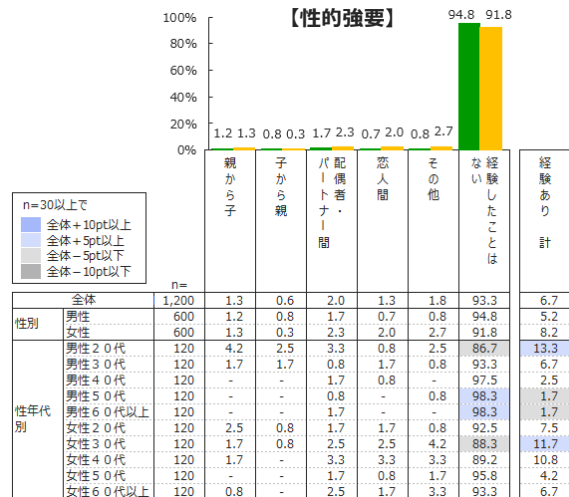
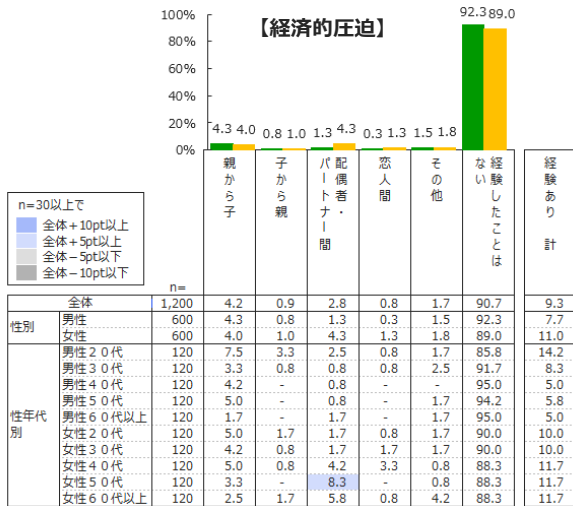


- 参加している活動は、「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動」が14.9%で最も高く、20代男性で35.8%と最も高い。
- PTA・自治会・町内会などの活動は男性5.0%、女性6.8%と女性の方がやや高い。年代が上がるにつれ、男女ともに参加している人の割合が高くなる。
- 「特に参加はしていない」と回答した割合は77.3%で、40～50代で8割以上とやや高い。

家族内や親しい関係間での暴力やハラスメントなどの経験

Q19 家族内や親しい関係間での暴力やハラスメントなどを経験したことはありますか。以下で、あてはまるものをお答えください。(各 MA)



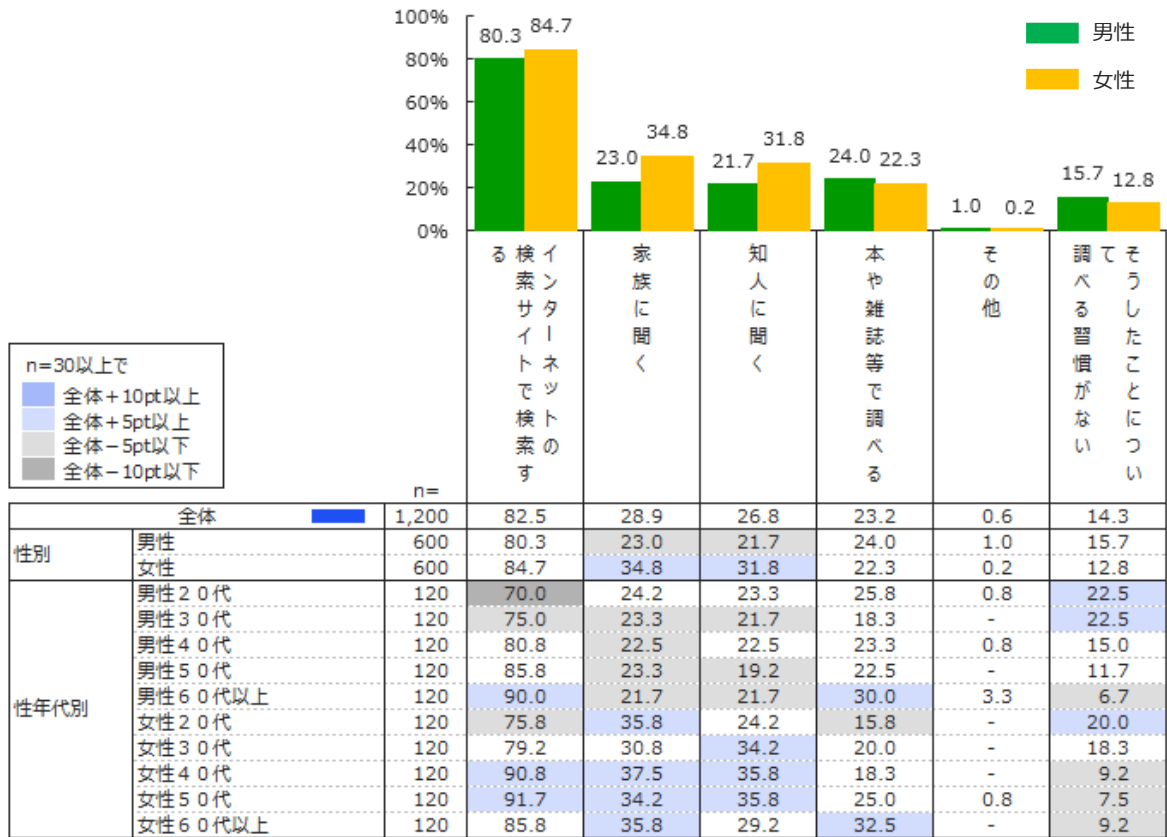


- これまでに心理的な暴行を経験したことがある人は5人に1人。女性は4人に1人と女性の方が割合が高い。
- 心理的な暴行の経験は、40代女性 28.3%、50代女性 29.2%で高い割合となっている。
- 男性では、20代に暴力を受けた経験がある人の割合が高くみられる。

5. 情報の収集、またはその手段について

情報収集方法

Q20 あなたは情報収集する際、どの手段を頻繁に利用していますか。(MA)



- 情報収集方法は、「インターネットなどの検索サイトで検索する」が82.5%と突出して高い。年代問わず高いが、年代が高い層が比較的高い。
- 「家族に聞く」「知人に聞く」という他者に尋ねる行為はいずれも女性の方が割合が高く、3割を超える。

デジタル端末の利用状況

Q21 スマートフォンやパソコン、タブレットなどのデジタル端末の利用について、以下の項目ではまることをお答えください。各(SA)

【デジタル端末のインターネット接続や利用できる】

| 性別 | 性年代別 | n | 利用状況 (%) | | | | |
|----|-------|-------|------------|------------------|--------------|--------------|--------------|
| | | | 独力で問題なくできる | 多少の不安はあるが、独力でできる | 独力でできないことがある | 独力でできないことが多い | デジタル端末を使用しない |
| 全体 | | 1,200 | 59.3 | 22.6 | 7.5 | 4.5 | 6.1 |
| 男性 | 20代 | 600 | 62.5 | 18.7 | 7.3 | 4.7 | 6.8 |
| | 女性 | 600 | 56.2 | 26.5 | 7.7 | 4.3 | 5.3 |
| 女性 | 20代 | 120 | 71.7 | 12.5 | 4.2 | 3.3 | 8.3 |
| | 30代 | 120 | 55.8 | 20.8 | 8.3 | 5.0 | 10.0 |
| | 40代 | 120 | 62.5 | 10.0 | 10.0 | 9.2 | 8.3 |
| | 50代 | 120 | 62.5 | 23.3 | 5.8 | 2.5 | 5.8 |
| | 60代以上 | 120 | 60.0 | 26.7 | 8.3 | 3.3 | 7.7 |
| | 20代 | 120 | 61.7 | 18.3 | 5.8 | 4.2 | 10.0 |
| | 30代 | 120 | 52.5 | 31.7 | 5.8 | 2.5 | 7.5 |
| | 40代 | 120 | 61.7 | 23.3 | 10.0 | 2.5 | 5.8 |
| | 50代 | 120 | 57.5 | 27.5 | 5.0 | 8.3 | 1.7 |
| | 60代以上 | 120 | 47.5 | 31.7 | 11.7 | 4.2 | 5.0 |

【インターネット上知りたい情報を取得できる】

(%)

| | | | n= | 独力で問題なくできる | 多少の不安はあるが、独力でできる | 独力でできないことがある | 独力でできないことが多い | デジタル端末を使用しない |
|------|----------|-----|-------|------------|------------------|--------------|---------------|--------------|
| 全体 | | | 1,200 | 65.1 | | | 20.7 | 5.8 2.5 6.0 |
| 性別 | 男性 | 600 | 65.3 | | | 17.5 | 7.2 3.2 6.8 | |
| | 女性 | 600 | 64.8 | | | 23.8 | 4.3 1.8 5.2 | |
| 性年代別 | 男性 20代 | 120 | 70.8 | | | 12.5 | 5.8 2.5 8.3 | |
| | 男性 30代 | 120 | 58.3 | | | 16.7 | 11.7 2.5 10.8 | |
| | 男性 40代 | 120 | 66.7 | | | 10.0 | 10.0 5.8 7.5 | |
| | 男性 50代 | 120 | 66.7 | | | 21.7 | 4.2 1.7 5.8 | |
| | 男性 60代以上 | 120 | 64.2 | | | 26.7 | 4.2 3.3 3.7 | |
| | 女性 20代 | 120 | 65.0 | | | 20.0 | 4.2 0.8 10.0 | |
| | 女性 30代 | 120 | 53.3 | | | 32.5 | 5.8 0.8 7.5 | |
| | 女性 40代 | 120 | 72.5 | | | 17.5 | 4.2 3.3 2.5 | |
| | 女性 50代 | 120 | 69.2 | | | 21.7 | 4.2 3.3 3.7 | |
| | 女性 60代以上 | 120 | 64.2 | | | 27.5 | 3.8 0.8 2.2 | |

【インターネット上で取得した情報が適切なか判断できる】

(%)

| | | | n= | 独力で問題なくできる | 多少の不安はあるが、独力でできる | 独力でできないことがある | 独力でできないことが多い | デジタル端末を使用しない |
|------|----------|-----|-------|------------|------------------|--------------|---------------|--------------|
| 全体 | | | 1,200 | 48.8 | | | 32.6 | 8.8 3.8 6.1 |
| 性別 | 男性 | 600 | 52.2 | | | 27.5 | 9.0 4.5 6.8 | |
| | 女性 | 600 | 45.5 | | | 37.7 | 8.5 3.0 5.3 | |
| 性年代別 | 男性 20代 | 120 | 60.0 | | | 23.3 | 5.0 3.3 8.3 | |
| | 男性 30代 | 120 | 45.8 | | | 26.7 | 12.5 5.0 10.0 | |
| | 男性 40代 | 120 | 55.0 | | | 20.0 | 9.2 8.3 7.5 | |
| | 男性 50代 | 120 | 49.2 | | | 35.0 | 6.7 2.5 6.7 | |
| | 男性 60代以上 | 120 | 50.8 | | | 32.5 | 11.7 3.3 3.7 | |
| | 女性 20代 | 120 | 48.3 | | | 30.8 | 8.3 1.7 10.8 | |
| | 女性 30代 | 120 | 40.0 | | | 40.8 | 8.3 3.3 7.5 | |
| | 女性 40代 | 120 | 46.7 | | | 39.2 | 8.3 3.3 2.5 | |
| | 女性 50代 | 120 | 48.3 | | | 36.7 | 9.2 4.2 1.7 | |
| | 女性 60代以上 | 120 | 44.2 | | | 40.8 | 8.3 2.5 4.2 | |

【インターネット上で取得した情報を有効に活用できる】

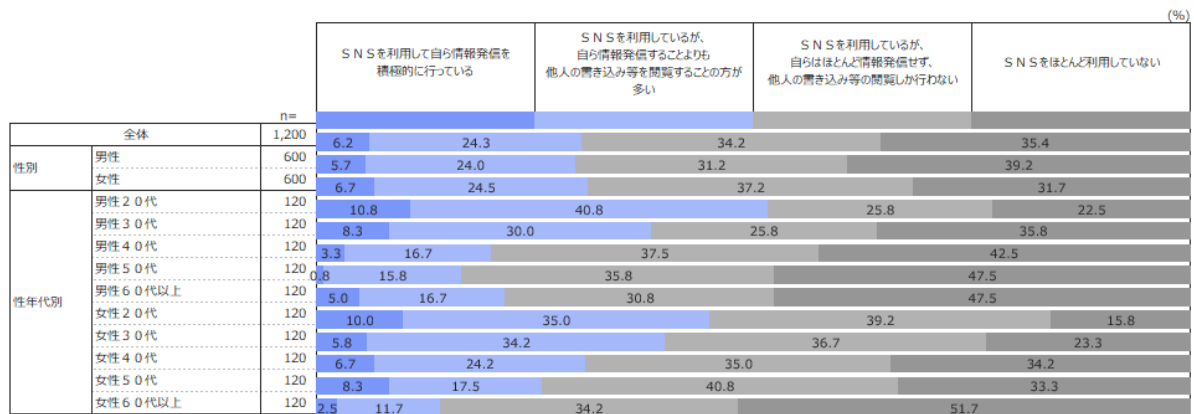
(%)

| | | | n= | 独力で問題なくできる | 多少の不安はあるが、独力でできる | 独力でできないことがある | 独力でできないことが多い | デジタル端末を使用しない |
|------|----------|-----|-------|------------|------------------|--------------|---------------|--------------|
| 全体 | | | 1,200 | 49.2 | | | 30.9 | 10.3 3.6 6.1 |
| 性別 | 男性 | 600 | 52.0 | | | 26.2 | 10.7 4.3 6.8 | |
| | 女性 | 600 | 46.3 | | | 35.7 | 9.8 2.8 5.3 | |
| 性年代別 | 男性 20代 | 120 | 60.0 | | | 22.5 | 5.8 3.3 8.3 | |
| | 男性 30代 | 120 | 45.8 | | | 24.2 | 14.2 5.0 10.8 | |
| | 男性 40代 | 120 | 53.3 | | | 20.8 | 11.7 6.7 7.5 | |
| | 男性 50代 | 120 | 50.0 | | | 31.7 | 9.2 3.3 5.8 | |
| | 男性 60代以上 | 120 | 50.8 | | | 31.7 | 12.5 3.3 3.7 | |
| | 女性 20代 | 120 | 52.5 | | | 25.0 | 10.8 0.8 10.8 | |
| | 女性 30代 | 120 | 43.3 | | | 37.5 | 8.3 3.3 7.5 | |
| | 女性 40代 | 120 | 45.8 | | | 37.5 | 11.7 2.5 2.5 | |
| | 女性 50代 | 120 | 49.2 | | | 33.3 | 10.8 5.0 1.7 | |
| | 女性 60代以上 | 120 | 40.8 | | | 45.0 | 7.5 2.5 4.2 | |

- デジタル端末の利用状況は、いずれの内容も「独力で問題なくできる」と回答した割合が4～6割で最も高い。
- 「デジタル端末を使用しない」と回答した割合は1割未満にとどまる。

SNS の利用状況

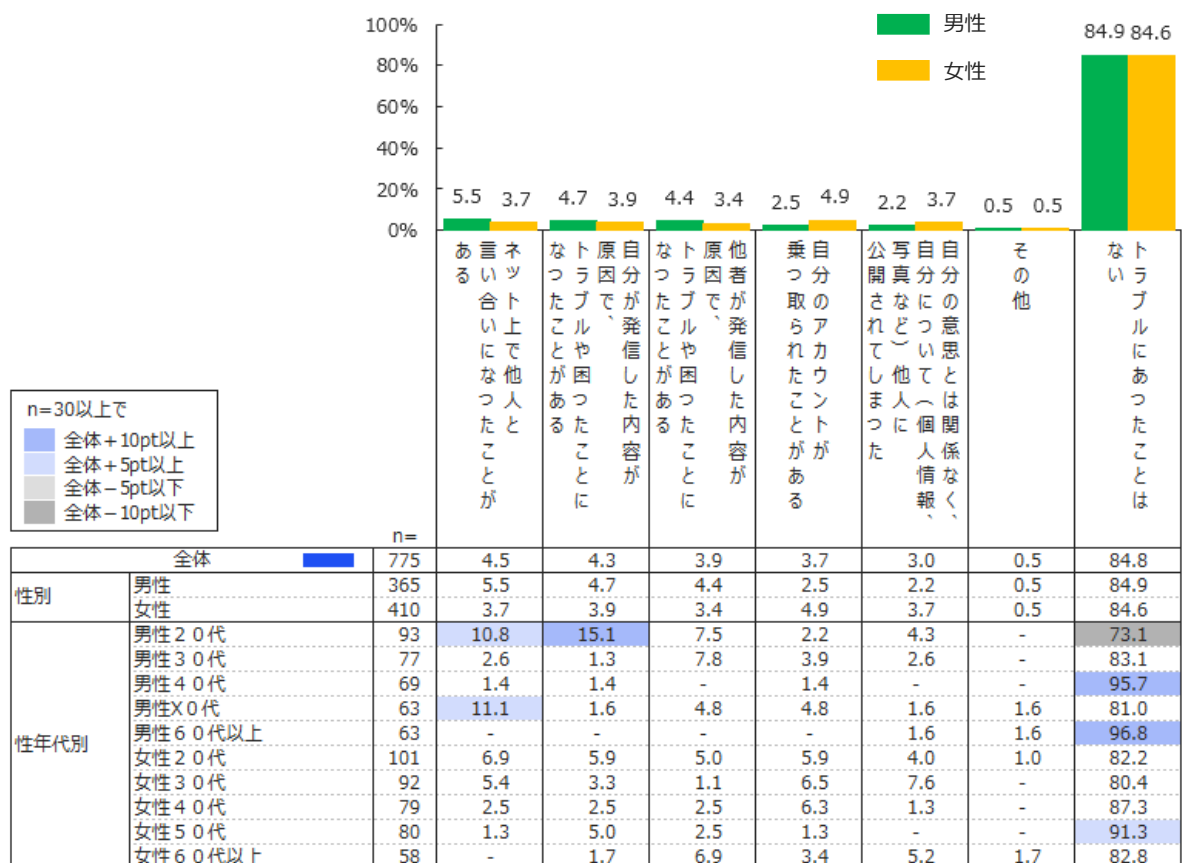
Q22 あなたのSNSの利用状況についてお答えください。(SA)



- SNSの利用状況は、「自ら情報発信を積極的に行っている」割合は6.2%、「他人の書き込みを閲覧することの方が多い」が24.3%、「他人の書き込みの閲覧しか行わない」が34.2%となっている。
- 「ほとんど利用しない」と回答した割合は男性が39.2%、女性が31.7%と男性の方が割合が高い。
- 若年層ほど、自ら情報発信を行う割合が男女ともに高い。

SNS でトラブルや困ったことになった経験

Q23 SNSを利用して次のようなトラブルや困ったことを経験したことはありますか。(MA)

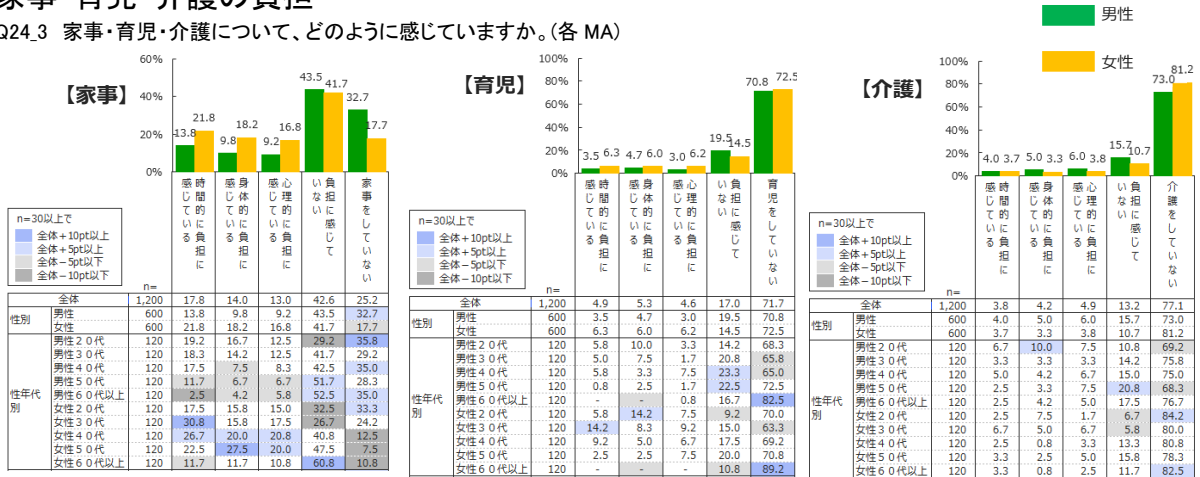


- SNSでトラブルや困ったことになった経験は、いずれも1割未満にとどまり、「トラブルに合ったことがない」と回答した割合が8割以上となっている。
- 他人とのトラブルは男性の方がやや割合が高い。
- アカウントを乗っ取られたことがあるのは、女性が4.9%と男性の約2倍となっており、若い年代の方が割合が高い。

6. 家庭、または家庭と仕事に関すること

家事・育児・介護の負担

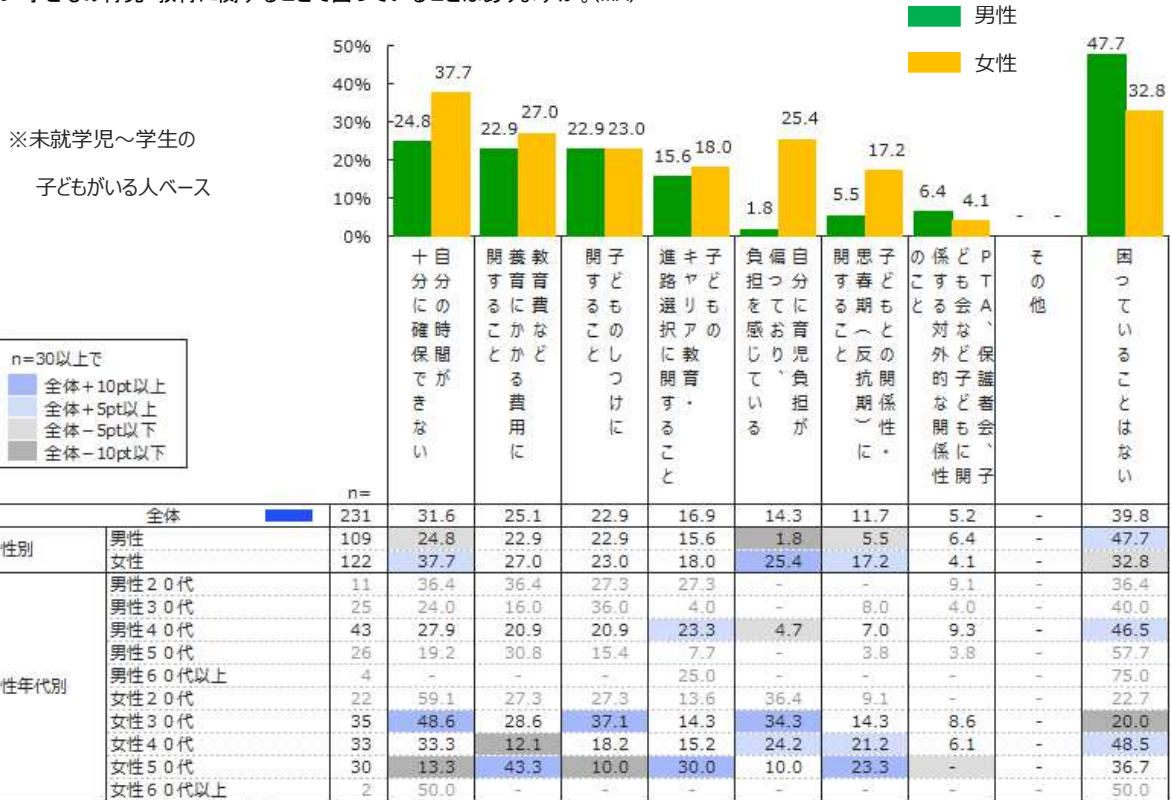
Q24_3 家事・育児・介護について、どのように感じていますか。(各 MA)



- 家事・育児・介護について、負担に感じているのはいずれも女性の方が割合が高い。
- 「家事」については最も時間的に負担に感じているのは30代女性であるが、身体的・心理的に負担に感じているのは40代・50代女性となっている。20代は男女ともに3人に1人が家事をしていないと回答している。
- 「育児」については最も時間的に負担に感じているのは30代女性であり、30代男性の約3倍となっている。
- 介護をしている性別年代の最も高いのは50代男性、続いて20代男性となっている。

子どもの育児・教育に関する困りごと

Q25 子どもの育児・教育に関することで困っていることはありますか。(MA)

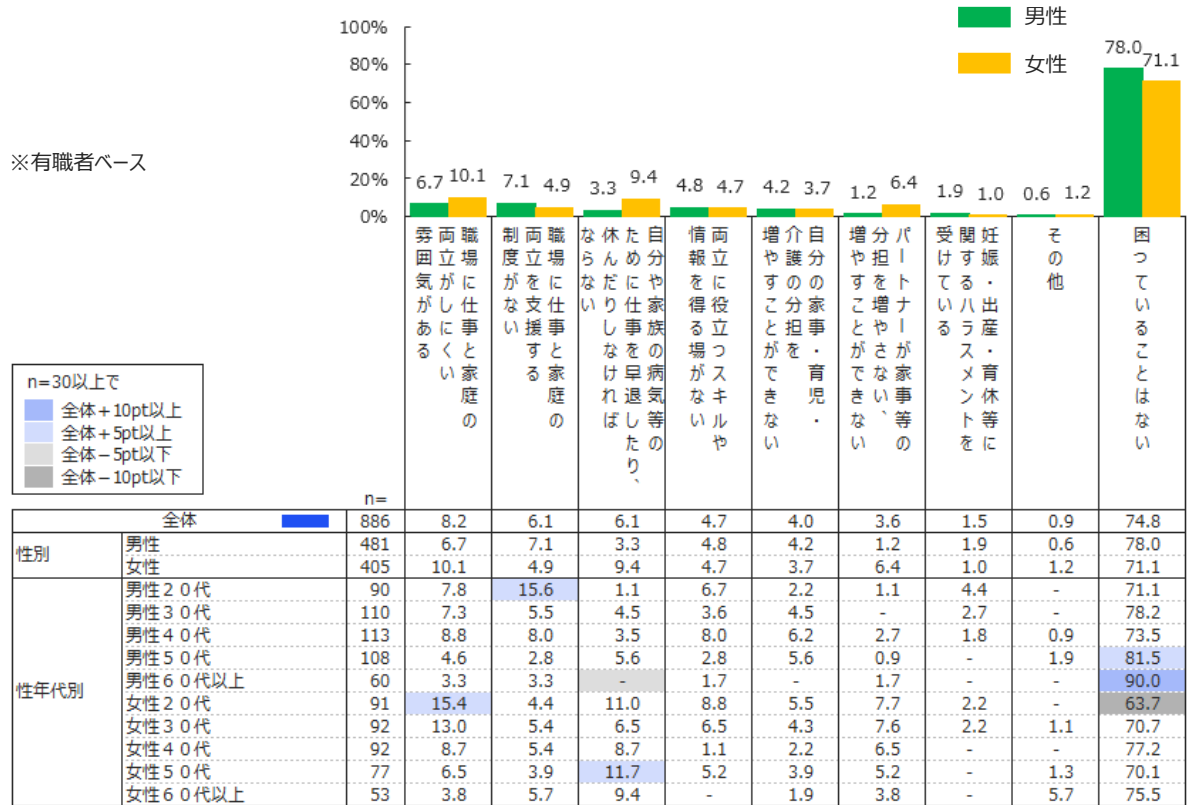


- 子どもの育児・教育に関する困りごとは、「自分の時間が十分に確保できない」が31.6%で最も高く、女性の37.7%が何らかの困りごとを抱えている。
- 「自分に育児負担が偏っており、負担を感じている」と回答した女性は25.4%で、男性は1.8%とかなり大きな差がある。

- 「子どもとの関係性・思春期に関すること」と回答した女性は17.2%で、男性の5.5%の約3倍となっている。

家庭のことと仕事との両立に関する困りごと

Q26 家事・育児・介護など家庭のことをしながら仕事をするときに、困っていることはありますか。(MA)



- 家庭のことと仕事との両立で、男性は22.0%、女性は28.9%の人が何らかの困りごとを抱えている。
- 男性20代では、「職場に仕事と家庭の両立を支援する制度がない(15.6%)」「妊娠・出産・育児等に関するハラスメントを受けている(4.4%)」など、職場に関する困りごとがみとれる。
- 「職場に仕事と家庭の両立がしにくい雰囲気がある」と回答した割合が最も高いのは20代女性で、続いて30代女性となっている。

家事に関する困りごと

Q27 家事について最も困っていることを具体的に教えてください。(自由記述回答)

- めんどくさいという心理的ストレス 男性 20代
- 安い給料をカバーするために残業しているため、家事に十分な時間を避けない 男性 20代
- 仕事で帰りが遅く、洗濯がたまる 男性 20代
- 食洗機と洗濯乾燥機が欲しいが金銭的に厳しい 男性 20代
- やり始めるのに時間がかかり、やり終えるのに時間がかかること。 男性 30代
- 苦手なことをすると時間がかかるので、ストレスがたまる 男性 30代
- 仕事の疲労感が強く、洗濯などが億劫だ 男性 30代
- 自分の就労時間が不規則な為、妻の負担が大きい 男性 30代
- 家事の時間を短縮したい 男性 40代

| | | |
|--|----|-------|
| ● 時間がなくてすべてに手が回らない。 | 男性 | 40代 |
| ● 平日に時間がなかなかとれない。 | 男性 | 40代 |
| ● 子供との時間が取れない | 男性 | 50代 |
| ● 自由な時間を削るかんじ | 男性 | 50代 |
| ● 食費の高騰 | 男性 | 50代 |
| ● 平日は仕事で疲れてしまい家事をしようという気力がない | 男性 | 50代 |
| ● 一人住まいで、家事全般が面倒 | 男性 | 60代以上 |
| ● 妻も介護必要、私も体調が悪くなってきたこと | 男性 | 60代以上 |
| ● 掃除と毎日の夕食の買い物や準備。 | 男性 | 60代以上 |
| ● 掃除や家具の移動が出来ない | 男性 | 60代以上 |
| ● 育児に時間が取られて家事ができない | 女性 | 20代 |
| ● 小さい子どもを連れて買い出しに行くこと。ちょっと欲しい物があっても準備に時間がかかったり、お米等重たい物を買うことができない。 | 女性 | 20代 |
| ● 面倒くさくてやりたくないが夫の手前最低限やらないと、誰もやってくれない自分がやらないと気が済まない性格なのでやってしまいしんどくなる | 女性 | 20代 |
| ● ほぼわたし一人で行っているために、心的・身体的ストレスと疲労がひどいこと | 女性 | 30代 |
| ● 育児負担がかたよっているため、子どものことと同時進行で家事を行わなければならず、家事に集中できないこと。 | 女性 | 30代 |
| ● 家事に取られる時間に休息したい | 女性 | 30代 |
| ● 終わりが無い | 女性 | 30代 |
| ● 家事や料理が基本的に苦手なのですこと自体にストレスを感じる | 女性 | 40代 |
| ● 重たい物や、日用雑貨と、かさばる買い物を自転車に、パンパンに乗せて毎回、大変な思いをしていることについて、何も、手伝おうとしない。家で寝ている。何もしない。腹立つ。 | 女性 | 40代 |
| ● 疲れて帰ってきて家事をしたくないがしないといけないこと | 女性 | 40代 |
| ● 毎日の晩御飯。献立を考えるのが大変。レパートリーが、少ない。一生懸命作っても、子供が食べない。食わず嫌い。偏食。 | 女性 | 40代 |
| ● 家族の予定に合わせるため自分の都合は後回し | 女性 | 50代 |
| ● 人でやっている、汚すのはみんなでごすので大変です | 女性 | 50代 |
| ● 全部の家事を私ひとりが担当している。私もフルタイムで働いており不公平だと非常に感じる。 | 女性 | 50代 |
| ● 年を追うごとに体力が低下しているので、心理的にも身体的にも家事をすることが億劫に感じる。 | 女性 | 50代 |
| ● 家事は女性の仕事と思っている事 | 女性 | 60代以上 |
| ● 最低の予算での食生活 | 女性 | 60代以上 |
| ● 配偶者が退職して家に居るが、上手く、家事を分担出来ない | 女性 | 60代以上 |
| ● 夫が週3日リモートワークをしているのでメニューを考えるのと食事を作るのに負担がかかる | 女性 | 60代以上 |

育児に関する困りごと

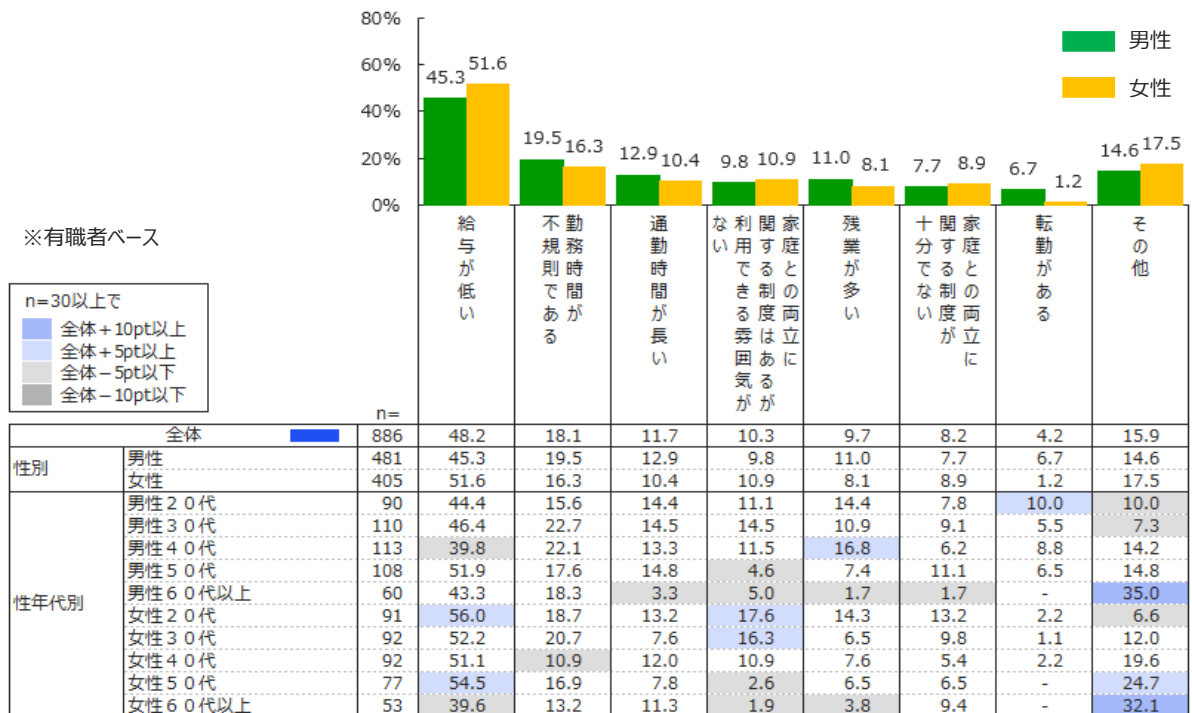
Q27 育児について最も困っていることを具体的に教えてください。(自由記述回答)

| | | |
|--|----|-----|
| ● 子供への教育の仕方 | 男性 | 20代 |
| ● これであっているのか不安になることがある | 男性 | 30代 |
| ● しっかりと時間をかけてあげられていない | 男性 | 30代 |
| ● 何が正しいのか分からなくなる時がある | 男性 | 30代 |
| ● 子供の相手をするのが大変 | 男性 | 30代 |
| ● 将来の教育費を貯められるかどうか | 男性 | 30代 |
| ● 素直に育つか不安 | 男性 | 30代 |
| ● 子供が言うことをきかない | 男性 | 40代 |
| ● 子供が独立できるのか心配 | 男性 | 40代 |
| ● 思春期の対応 | 男性 | 50代 |
| ● イヤイヤ期 | 女性 | 20代 |
| ● やってと言ったことをすぐやらない、悪いと思っていることをわざとする。 | 女性 | 20代 |
| ● 育児に協力的ではない | 女性 | 20代 |
| ● 何事にも神経質になってしまう、離乳食がうまいかなち | 女性 | 20代 |
| ● 子供と2人きりの時間が多く、すべきことに悩む。 | 女性 | 20代 |
| ● 旦那がなにもしない。イヤイヤ期 | 女性 | 20代 |
| ● 怒ってしまう何が正解かわからない | 女性 | 20代 |
| ● 負担が大きい | 女性 | 20代 |
| ● 目が離せない | 女性 | 20代 |
| ● 離乳食がなかなかすすまないこと | 女性 | 20代 |
| ● 2人いるのでどちらかを優先する事ができなくてどうしても上の子を叱りがちになってしまい毎日後悔している。 | 女性 | 30代 |
| ● ストレスがたまる | 女性 | 30代 |
| ● 育児負担はこちらに偏っているにもかかわらず、叱っている一面だけを見てこちらを攻撃したり、子どもの前で母は間違っていると発言してくる夫の存在。 | 女性 | 30代 |
| ● 子供が思春期にさしかかり、感情の起伏が激しいこと | 女性 | 30代 |
| ● 子供と接する時間が少ない | 女性 | 30代 |
| ● 子供にかけてあげる時間がない | 女性 | 30代 |
| ● 出産したばかりで全てが不安 | 女性 | 30代 |
| ● 少し反抗期になってきているのでコレから先が少し心配 | 女性 | 30代 |
| ● 平日も土日もほぼわたし一人で行っているために、心的・身体的ストレス、疲労がひどいこと | 女性 | 30代 |
| ● 効率的に行動して欲しいのに時間にルーズだったり抜けがあつたりで先回りして全部言いたいのを我慢すること | 女性 | 40代 |
| ● 子ども嫌いなのに育児を一人でしないといけないのが辛い。 | 女性 | 40代 |
| ● 子供が上手く成長できるか？ | 女性 | 40代 |
| ● 子供との向き合い方 | 女性 | 40代 |
| ● 子供の友達関係 | 女性 | 40代 |

- 宿題や、テスト勉強、提出物、身支度、食事等、何から何まで、親任せで、ホントしんどい。自分やらないことに、何も感じない。他人事。ずっとゲームしてる。 女性 40代
- 子どもが思春期で反抗的になることが多く、コミュニケーションの取り方に苦心する。 女性 50代
- 親の言う事聞かない 女性 50代
- 正しい育て方をしているのかどうか答えが出ないこと。 女性 50代
- 息子との意思の疎通がうまくいかない 女性 50代
- 息子の反抗期が長い 女性 50代

勤務条件や労働環境に関する困りごと

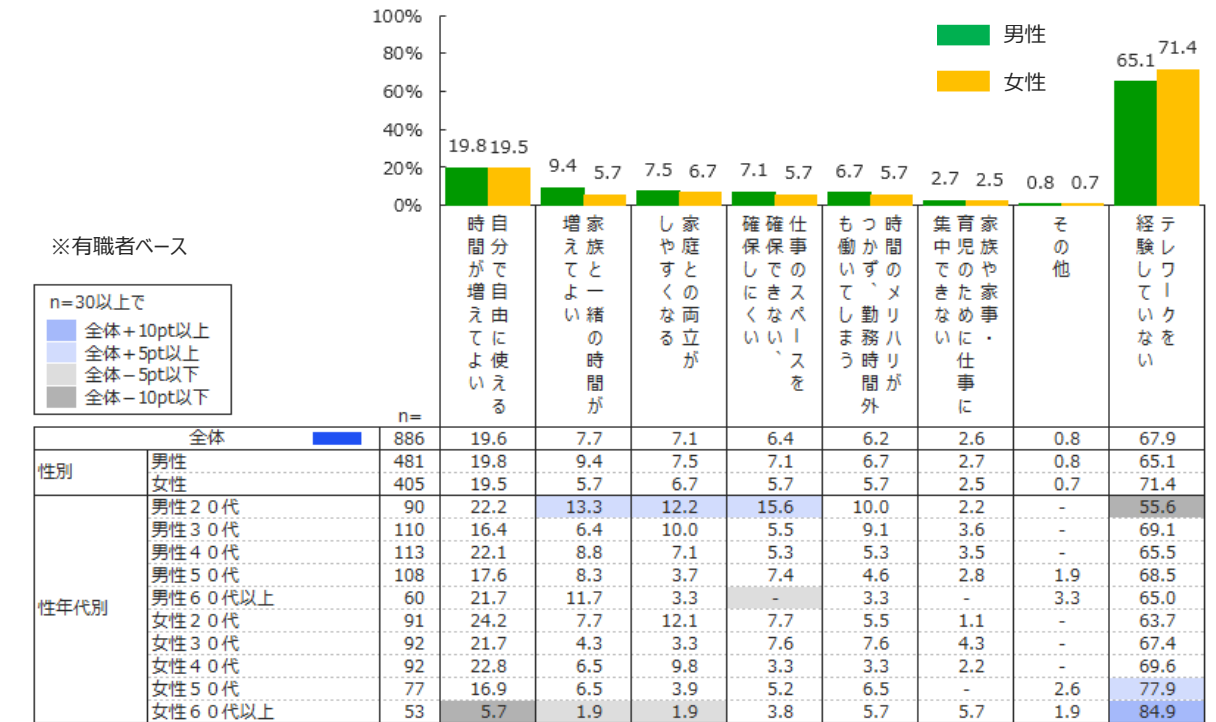
Q29 勤務条件や労働環境について困っていることはありますか。(MA)



- 勤務条件や労働環境に関する困りごとは、「給与が低い」が48.2%と約半数に達する。続いて、「勤務時間が不規則である」が18.1%、「通勤時間が長い」が11.7%となっている。
- 60代女性以外の女性は過半数が「給与が低い」ことに困っている。
- 20代男性の10人に1人は「転勤がある」ことに困っている。

テレワークを経験して感じたこと

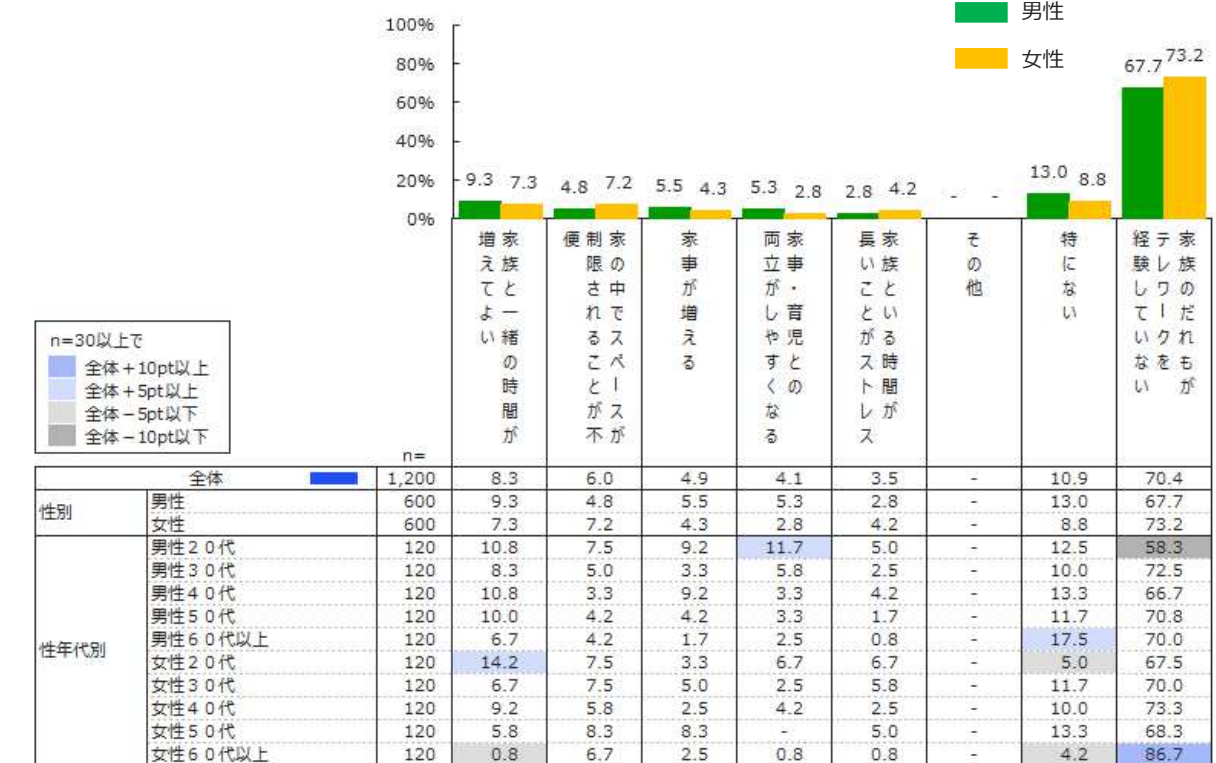
Q30 自分がテレワークを経験したことによって感じたことではまるものをお答えください。(MA)



- 男性の65.1%、女性の71.4%はテレワークを経験していない。
- 男女ともに「自分で自由に使える時間が増えてよい」(男性19.8%、女性18.5%)と感じている。
- 男性の方が「家族と一緒の時間が増えてよい」(9.4%)と感じている人の割合が高い。その他の項目に大きな男女差はみられない。

家族がテレワークを経験して感じたこと

Q31 家族がテレワークを経験したことによって感じたことではまるものをお答えください。(MA)

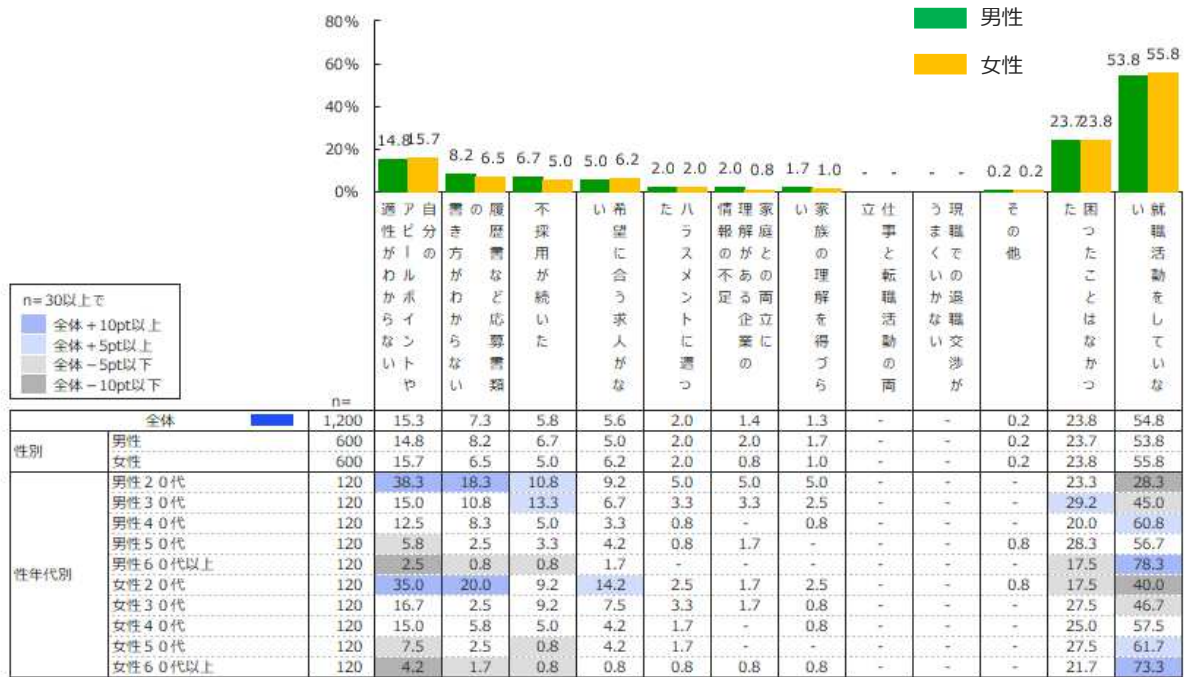


- 20代は「家事・育児との両立がしやすくなる」と回答している人が他の世代より男女ともに割合が高い。
- 「家族と一緒の時間が増えてよい」と回答した人の割合は男性の方がやや高い。

7. 求職に関すること

就職活動で困ったこと

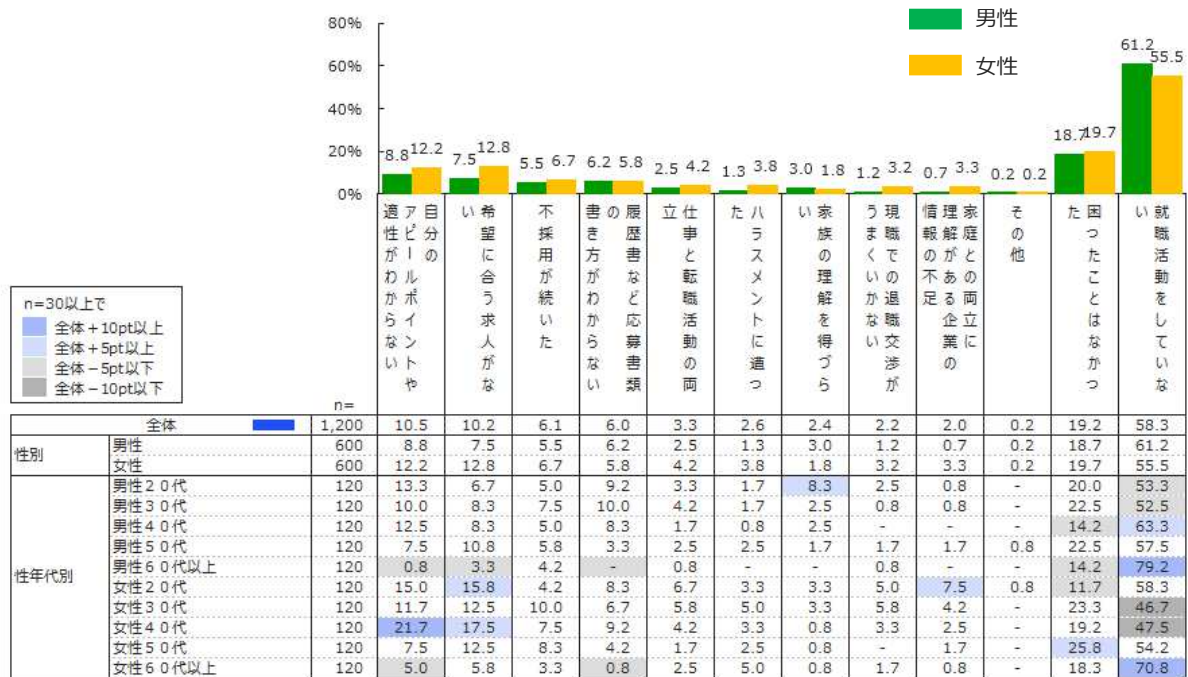
Q32_1 就職活動の際に困ったことはありますか。過去5年以内の状況であてはまるものをお答えください。／新卒(MA)



- 就職活動で困ったことは、「自分のアピールポイントや適性がわからない」が15.3%で最も高く、20代では男性が38.3%、女性が35.0%と特に高い。
- 新卒の就職活動では、男女で大きな差はみられない。

転職・再就職で困ったこと

Q32_2 就職活動の際に困ったことはありますか。過去5年以内の状況であればはまるものをお答えください。／転職・再就職(MA)

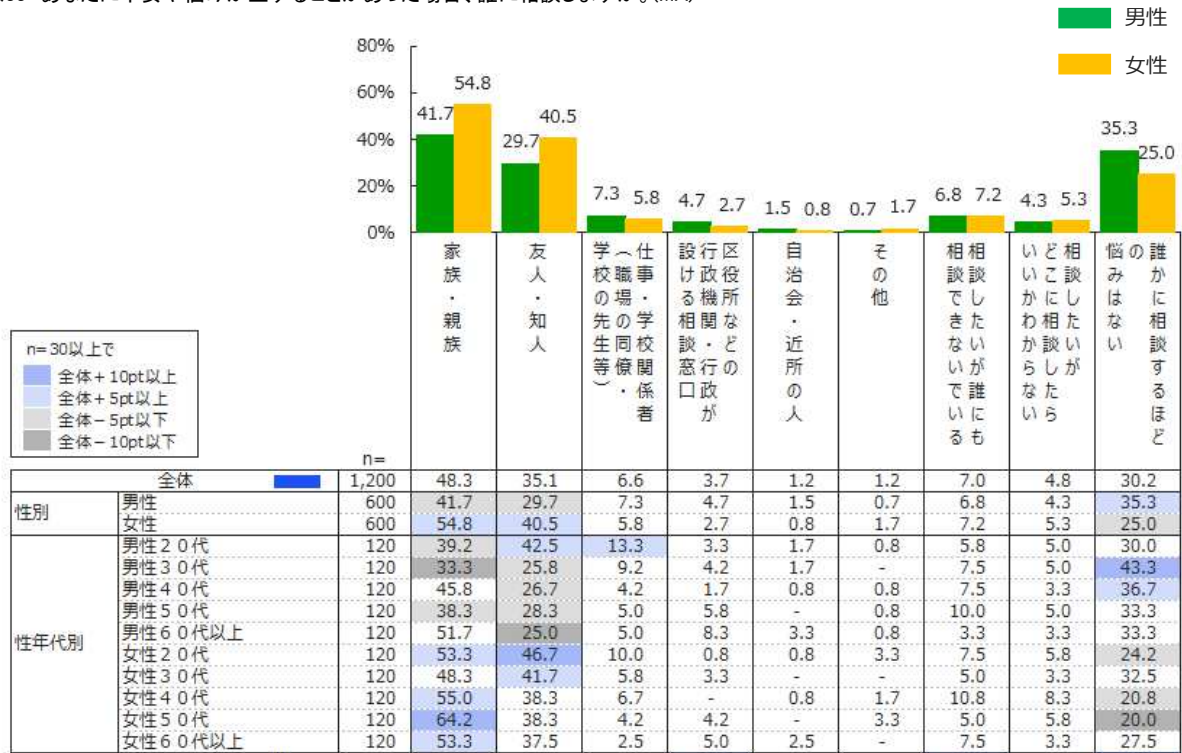


- 転職・再就職で困ったことも、「自分のアピールポイントや適性がわからない」が男性 8.8%、女性 12.2%と最も高く、40代女性の割合が特に高い。
- 女性の方が「希望に合う求人がない」と回答する人の割合が高い。
- 女性の方が「家庭との両立に理解がある企業の情報不足」と回答しており、20代女性、30代女性で特にその傾向がみられる。
- 「ハラスメントに遭った」と回答した男性は 1.3%、女性が 3.8%となっている。

8. 相談に関すること

不安や悩みの相談先

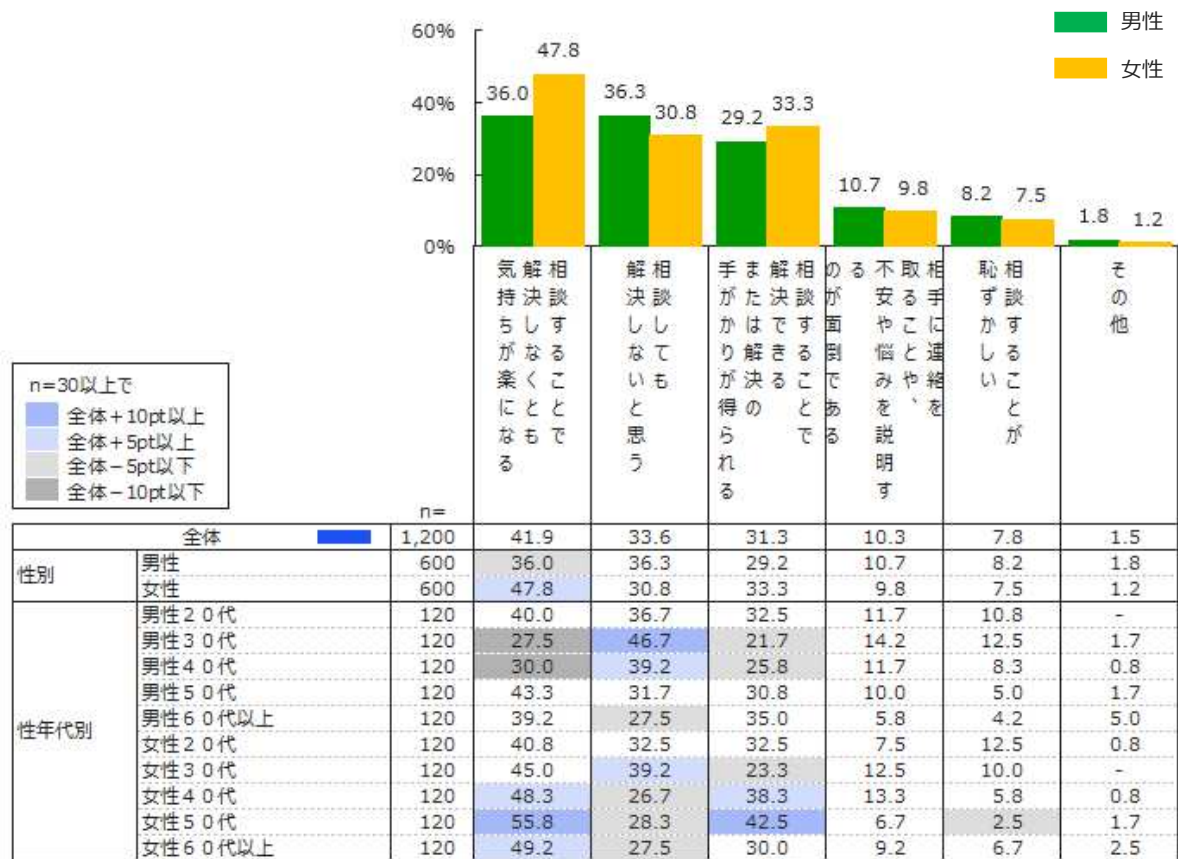
Q33 あなたに不安や悩みが生ずることがあった場合、誰に相談しますか。(MA)



- 不安や悩みの相談先は、「家族・親族」が48.3%で最も高く、次いで「友人・知人」が35.1%で続く。
- 「家族・親族」「友人・知人」は女性の方が割合が高くなっている。
- 「相談したいが誰にも相談できない」「相談したいがどこに相談したらいいかわからない」は男女ともに同程度みられる。
- 「誰かに相談するほどの悩みはない」は、男性35.3%、女性25.0%となっている。

不安や悩みを相談することに対する気持ち

Q34 あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。(MA)



- 不安や悩みを相談することに対する気持ちは、「相談することで解決しなくても気持ちが楽になる」が男性 36.0%、女性 47.8%と女性の方が高く、年代が高いほどその傾向がみられる。
- 男性は「相談しても解決しないと思う」が 36.3%、「相談することで解決できるまたは解決の手がかりが得られる」29.2%となっているが、女性は前者が 30.8%、後者が 33.3%となっており、女性の方が相談に対する前向きな評価をしている。

Ⅲ. 考察

市民の困りごとを、「生活」、「仕事」と「その両者に関わること」および「困りごと対処関連」の4領域に大別して調査を行なった。その調査結果から導かれる考察の主要論点は次のとおりである。

1. 経済的状态は、今回の4つの調査領域の全てにおいて、多くの場合何らかの困りごとと関連している。生計費、住宅関連、DV ハラスメントなどで顕著である。年齢階層ごとの困りごとの特性として中高年層は定年後の生計維持を困りごととすることが目立った。また 20 歳代の年齢層において教育費を困りごととしているという回答が多かった。
2. 生活と仕事の両者に関わる困りごとが目立つ。仕事と家庭の両立について男性が困りごととすることが確認できた。
3. 男女共同参画の視点という意味で、仕事と生活と両方に関わる DV・ハラスメントについて困りごととしての実態が確認できた。
4. 人間関係とコミュニケーションに関する困りごとは、家庭、仕事、そして地域などの活動範囲で生ずる人間関係にともなうものである。2 人に 1 人が困っていて男女共通である。DV・ハラスメントの困りごとのもこの延長線上に位置しているといえる。
5. 「困りごと対処関連」として、情報収集や相談ツールとしてインターネットや SNS 利用の比率が、年代を問わず極めて高い実態が確認できた。
6. 「困りごと対処関連」として、相談の機能や役割について確認できた。すなわち必ずしも相談の結果が解決につながらなくても一定の効用が認められていることが示された。

なお今回調査では困りごと・困っているという状態を示すために、次のような対応をおこなっている。すなわち、「困っていること」を尋ねるという調査を通じて、大阪市民が「ない」と答える率は項目によって異なっている。今回調査は困っている程度を、「かなり困っている」「困っている」「少し困っている」と3段階で尋ねた。また、困っていない程度についても「困っていない」「全く困っていない」と2段階で設定している。これは回答者がためらわず回答できるための配慮であった。その結果、よりの確な考察が可能になった。

さらに考察に際して、「かなり困っている」「困っている」「少し困っている」をまとめて「困っている」層とする集計も行い、また、程度の幅をもって「困っている比率」と設定した。この“3 段階合計の困っている集計”が、いくつかの図にも反映されている。そして、今回調査ではこうした程度の差異も含めていることを考慮しながら検討をすすめている。

以下、上記の論点にしたがって調査結果考察を示す。

1 経済的困りごと

生計の維持・支出に関することなど、経済的な困りごとは、個人所得階層、世帯所得階層とクロスすると一段と顕著となる。所得階層が低いほど顕著であり、また男性と比べ女性に困っている比率が高い。その原因は、男女の経済的格差及び就労状況である。男女の賃金格差の大きさは、そのまま女性の労働と経済力の現状に反映している。市場経済社会において、経済的格差は困りごとのあり方に反映しており、多くの困りごとは経済力が高まるほどに解決の度合いも高まる。

また、経済的状态は、それ以外の困りごとの領域にも明らかに影響を及ぼしている。例えば、DV・ハラスメント関連の困りごとの発生は所得水準が低い層ほど際立っていることから明らかである。

生計費に限ってみると、第1位が定年後の生計を困りごととする人が2人に1人、程度の差はあっても男女共通で全体の半分の人が困っていることが示された。男女差は大きくないが、定年後の生計維持を困っているとするのは女性が若干多い。そして、女性について年代別に見ると、40代が最も高く、30代、50代ともに高い(Q4_1)。

ついで生活費、そして家賃やローンの住宅関連支出とつづく。そして第4位となるのが子どもの教育費・保育費である。生計費、家計管理で住宅、教育、定年後の生活維持という多額の準備を要する費目が市民の困りごとの上位を示していることがはっきりと調査結果として示された。

さらに今回注目したいのは20代で教育費負担を困りごととすることが顕著であった。20代の教育費負担とは子どもの教育費と言うよりも自らの大学や専門学校など高等教育の授業料であると考えられる。加えて現役学生はもちろんであるが、奨学金返済が20代の負担となっている可能性が高いと推測できる。無利子で貸与される奨学生は限られ、多くの場合は有利子負債として学校大学卒業後、長きにわたって返済する必要があるという現状がある。

生計費の困りごとは節約行動からも調査した(Q5 節約しているもの(MA))。節約項目としては食費、光熱費、被服費が3大項目で、3分の1以上の人々が節約している。通信費、教養娯楽費、保健・医療がこれに続き衛生用品(ペーパー・紙おむつ・生理用品)なども対象となっている。節約項目の男女差は、女性の被服費と衛生用品にあらわれている。「生理の貧困」の現実がここにもあらわれている。

住宅関連経費については生計費が全体の半分であるのに比べれば3分の1ではあるが困っている人々がいる。そしてそれは低所得層ほど顕著である。さらに住宅関連経費も男女差は大きくないが、全体にわずかずつであるが女性が男性よりは困っている。そして年齢層が上がるほどそれは著しい。

住宅、生活環境等の困りごと(「かなり困っている」+「困っている」+「少し困っている」の合計としては、災害時、耐震化、住宅の管理修繕負担はいずれもほぼ3分の1が困っている。災害に対応しての管理や修繕もまた経済的負担をとまなうものだからであろう。住宅ローンなど経済的負担は全体の約4分の1が困りごととしている。生計を主に男性が担う現状があるせいも女性より男性が多い。

住宅については、経済的困難課題ではないが近隣とのトラブル、買物・交通の便も指摘されている。ただ住宅、生活環境の困りごとについては、「かなり困っている」のみとすると5%程度に下がる。おそらく困ったという困難感をもちつつ市民生活をおくっているが、今すぐ何とかしなくてはならないほどではない現状があるといえるだろう。実際に「かなり困っている」を選択している人は限られている。とはいえ、「少し困っている」「困っている」を加えるとき、困っている比率は上昇する(Q7住宅生活環境困りごと)。やはり所得階層が下がるほど困っている比率は上昇する。

これは転居に関連しても同様である(Q10 転居の障害、困りごと)。これは転居した人に限られるが、金銭的負担(34.1%)、や保証人(12.3%)、そして入居拒否(4.6%)で困っている。

健康・治療についてもやはり経済的状況が困難さと関連しており(Q11)、治療の金銭的負担(19.6%)が指摘されている。そして低所得層ほど金銭負担で困る比率が高い。

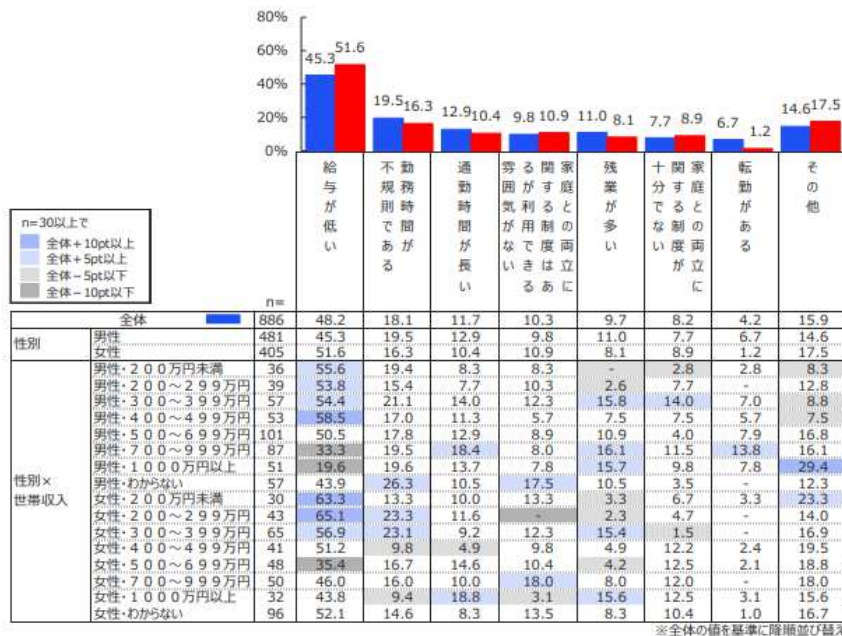
2 生活と仕事の両者に関わる困りごと

今回調査では生活の困りごととして、家事・育児・介護について負担を調査している。育児と介護については7割が「していない」と回答しており(Q24_1家事、Q24_2育児、Q24_3介護)、育児と介護が社会生活でも家庭生活でも“一部のひとの事柄化”している現状が示された。7割の人にとって育児も介護も日常に存在していないこととなっているが、さすがに家事について「していない」という回答は男性の32.7%、女性の17.7%であった。そして生活のなかで実際に女性が男性より家事を行っているゆえに、男性よりも女性が負担に感じている。

一方で、家事・育児・介護と仕事の両立については、女性はもちろんであるが男性も困っていることが示された。現在「女性に対する両立支援策」は整備されても、「男性に対する両立支援策」は未だ十分ではない現状があることがわかる(Q26)。

勤務条件で困っていることは、給与の低さをほぼ半数近い人が指摘している。それに次いで勤務時間の不規則さ、通勤時間が長いことなどとともに、家庭との両立支援制度の利用がしにくいことや制度がないことが選択されている。これは勤務条件の困りごと(Q29)でも「家庭との両立に関する制度が十分でない」とする男性が世帯所得300万円台で14%、700～999万円台で11.5%いる。全体に年代別に見ると、男女を問わず「両立支援策」の整備と利用の項目についてが、困りごとと認識されている。

Q29 勤務条件や労働環境について困っていることはありますか。(MA)



3 人間関係とコミュニケーション

人間関係とそれにとまなうコミュニケーションは仕事においても家族や地域生活の中でも必ず発生する。また、人間関係ストレスは軽微なレベルからきわめて深刻な事態に関わる事象まで幅がある。さらに、生活領域と仕事領域の両方に関わっている。

調査結果では、およそ半分の市民が人間関係ストレスを抱えていることが示された。市民が過ごすそれぞれの時間に対応するように、職場(上司・同僚)、取引関係、そして夫婦家族の順でストレスの存在の指摘が多かった。職場に関しては男女の差なく生ずるが、夫婦関係や親子関係では女性のストレス度は男性より高い。また職場関連ストレス発症率が300人以上規模企業は300人以下に比べて高い。

今回の調査では、とりわけ仕事に関連してのストレスの高さの実態を確認できた。上司や職場の同僚とのストレスが困りごととして認識されている率(18.8%)は男女ともに高く、また、取引先との関係も同様である(11.9%)。企業規模が大きい職場では、3人に1人(男性34.5%、女性30.7%)が人間関係ストレスをかかえている。300人以下企業では、男性18.3%、女性26.0%と低下する。また、個人年収や世帯年収の階層で少しずつ差はあるが、全体として女性より男性が高い。

また、それに対して家庭・家族での夫婦や親子関係のストレスは、男性より女性がより多くストレスを感じている(Q15)。夫婦関係は男性7.3%、女性10.5%と女性のストレス度が高い。友人関係でも男性3.8%に対し、女性6.7%となっており、女性の方がストレス度が高い結果となっている。

4 DV・ハラスメント

今回調査では男女共同参画の視点という意味で、仕事と生活と両方にかかわるDV・ハラスメントについて調査項目を設定し、困りごととしての実態を確認できた。

令和4年施行のハラスメント防止法を念頭において行った調査(大阪市:令和2年度「職場におけるハラスメント実態調査」)とは視点を換え、特にDVを困っている事柄として身体、心理、経済、性的強要などの多様な側面から調査した(Q19)。

今回調査では、経験なしとした回答は、身体的85.6%、心理的80.2%、経済的90.7%、性的93.3%であった。さらに、「経験あり」の男女差をみると、いずれも経験ありは男性より女性が多い。身体的暴行は親子間で女性の12%、心理的は親子間で女性の10%が経験している。親子間での暴力を10人に1人が体験している現実がある。暴言などの心理的暴力についてもやはり親子間が多い。そして、所得階層が低いほどにその発生比率が高いわけではなく、所得階層にかかわらず親子間の暴力が発生している。

5 デジタル端末のインフラ化

スマートフォンやパソコン、タブレットなどのデジタル端末を使用しない人と世帯年収での関連は見られなかった。これは、デジタル端末が生活のインフラになっていることを示している。

困りごとへの対処として、情報収集や相談ツールとしてインターネットやSNS利用の比率がきわめて高いことが判明した。これは年齢階層を問わない傾向が確認できた(Q20)。とりわけ60代でも高いインターネット利用がすすんでいる。「デジタル端末のインターネット接続や利用」や「インターネット上での知りたい情報の取得」を独力でできる人の割合は、年代で大きな差はみられない。

情報提供ツールや相談窓口設定においてのインターネット利用の基盤がととのっていることを本調査により確かめることができた。パソコンやスマートフォンの普及とインターネット利用の拡大は、困っている人にとっては社会資源や支援情報へアクセスしやすさ、または、困難に陥る前の予防・啓発的情報の入手のしやすさにつながるであろう。支援者側としては、積極的な発信について多様な可能性を示しているといえる。

6 困りごと対処としての相談機能や役割

困難な状態や困りごとへの対応としての相談についても、あらためてその機能や役割を確認することができた(Q33、34)。困りごとは個人で抱え込まず、他者と共有することで解決法やその糸口が見つかる場合があり、その他者との共有で最も一般的なアクションが相談である。家族や知人にはじまり、職場や公的な相談窓口の利用、最近では、SNS などインターネットを介した相談窓口も広がっている。

大阪市民が相談先として考えているのは、まず家族、ついで友人知人が上位となっている。その順位では、男女共通するものであるが、相談する人の割合はそれぞれ 10 ポイント程度、女性の方が高い数値となっている。その一方で「相談したいが誰にも相談できないでいる」人は7%前後存在する。中でも、高い割合を示すのが、世帯年収 200 万円未満の男女であり、「相談したいが誰にも相談できないでいる」人は、男性 13.2%、女性 26.7%である。加えて、「相談したいがどこに相談したらいいかわからない」と回答した世帯年収 200 万円未満の男性は 6.6%、女性は 13.3%と、いずれも全体よりも高い割合となっている。また、同居していない家族や友人とのコミュニケーションの手段と頻度に関する設問(Q17)でも、明らかに世帯年収別に差異がみられ、世帯年収が低い層の方がコミュニケーションの頻度が低い傾向にある。このことから、収入の貧困と人間関係の貧困、情報の貧困の関連性が説明できる。つまり、所得が低いほど、人間関係が希薄であり、孤立しやすい。そして、結果として、情報収集にも不利に働いているのである。すでにさまざまな相談対応が展開されているが、継続的に相談の周知広報をする必要性が改めて示された。

相談することは問題の解決を求めての行動である。しかし、相談することが必ず解決をもたらすとは限らない。実際、今回の調査でも「相談しても解決しないと思う」という選択肢を設けたところ、男性の 36%、女性の 31%がそれを選んでいった。しかし、その一方で相談が「解決の手がかりが得られる」とする人も男性の 29%、女性の 33%存在する。さらに「解決しなくても気持ちが楽になる」とする女性は 48%であった。すなわち、必ずしも相談行動の結果が解決につながらなくても、様々な相談窓口や機能が社会のなかで果たす一定の効用や役割を確かめることができたといえる。

IV. まとめ

社会経済の発展と変化を経て、国民・市民そして女性の直面する困難な課題はその様相を変化させてきた。またグローバル経済化のなかで外国人の流入の増加も仕事や生活の困難課題を変化させている。それに加え、コロナ禍は非正規雇用労働者の減少や自殺者の増加など、特に女性に深刻な影響を与えた。そうした変化に対応して女性の支援政策もいま転換期をむかえている。そのため社会変化に対応して男女共同参画政策の中での多様な支援政策の整備の整合性や新課題への対応も求められるに至った。

○今回調査の特徴

- 1) 男女の困難課題を多角的に考察した。主な視点としては、生計、住まい、人間関係、ワーク・ライフ・バランス、DV・ハラスメント関連である。
- 2) 「困難課題にいかに対応するか」という視点で、相談の実態に着目した。
- 3) 困難課題への対応、解決にあたり男女差があるかについて注目した。
- 4) 相談対象が誰か(家族、知人、職場、行政窓口)について尋ねた。
- 5) 相談・コミュニケーションツール(面談、電話、SNS、その他)の実態、利用度を探った。

○結果分析のポイント

- 1) 経済力（所得水準）の男女差
- 2) 経済力の差が、困っていることに反映しているか
 - ① 所得水準が、生計、住まいの困りごとに影響するか
 - ② 収入の貧困、人間関係の貧困、情報の貧困との関連がどうか

○調査実施の成果

冒頭に示したように骨太の方針をふまえた調査趣旨にもとづく令和4年度大阪市調査は、男女共同参画課題の視点での「困難課題」をめぐる市民調査であった。その成果は、以下のとおりである。

1. 市民のかかえる困難課題の実態が多角的に示された。
2. 困難課題には、一定の男女差がある。
3. 男女差とともに、所得水準、世代による差がある。
4. 項目によっては就業形態や企業規模も影響した。
5. SNS 利用度がきわめて高くなっていることが、世代を問わず確認できる。
6. 経済的困難課題が他の困難課題の発生と関係が深い。

多様な男女共同参画課題対応が整備されても、経済的困難はそれ以外の「困難課題」の発生と関連している。

その意味で、かつて売春防止法にもとづき婦人保護事業がすすめられていたことは、1950年代において女性の経済的困難課題の解決が、女性個人としても社会としても売春という枠組みで対応されていたことの証左といえる。

その後、女性の経済的困難課題は、女性の就労機会が格段に拡大したことで、一定程度解決されるようになった。

しかし、女性本人の稼得能力が拡大しても、働き方と関連する社会保障や税制における男女の役割分担維持の傾向、家族単位の所得水準の課題、また家族関係の中でのDV・ハラスメント課題は今日なお存在していることが今回調査によって示されたといえる。

経済的困難課題は、ほとんど全ての困難課題と深く関わることを確認するとともに、生活の諸問題が時間確保と不可分であることも示されていたのが今回の調査であった。また、収入の貧困と人間関係の貧困、情報の貧困の関連性を確認することができた。

その一方で、DV・ハラスメントについては所得階層と必ずしも対応しない現状が示された。DV・ハラスメントは家族内あるいは人間関係の権威や関係性を背景に生ずるのではないだろうか。さらには、その背後におそらく古典的な男尊女卑認識が潜んでいるといえるかもしれない。あるいはストレスの多い社会で、その発散の矛先が家族内の相対的に弱いものに向いていく傾向の表れかもしれない。

家事・育児・介護と仕事の両立課題は、性別役割分担の有り様の変化に対応していた。さらに、すでに20世紀から家族的責任を支援する政策が提起されていたにも関わらず、今回調査が、21世紀の大阪において仕事と家庭の両立課題が女性にとどまらず、実は男性の課題にもなってきていることの兆しを示す結果となったことを指摘しておきたい。